

二軒屋遺跡
芋内遺跡

平成28年3月

宇都宮市教育委員会

例 言

- 1 本報告書は、栃木県宇都宮市若松原3丁目1116-2他に所在する二軒屋遺跡と宇都宮市中島町643他に所在する芋内遺跡に関する発掘調査報告書である。
- 2 二軒屋遺跡の調査は、個人住宅建設に伴う調査で、芋内遺跡は道路新設工事に伴う調査として実施したものである。
- 3 調査期間は次のとおりである。
二軒屋遺跡 平成24年9月12日～同年9月14日（A地点調査）
平成25年3月11日～同年3月29日（B地点調査）
芋内遺跡 平成23年11月21日～同年11月22日（1次調査）
平成24年7月19日～同年8月31日（2次調査）
- 4 調査対象面積は次のとおりである。
二軒屋遺跡 156.38㎡（A地点調査）
282.28㎡（B地点調査）
芋内遺跡 360㎡（1次調査）
720㎡（2次調査）
- 5 二軒屋遺跡（A地点調査）の発掘調査での測量、写真撮影等は君島直人・今平利幸が、二軒屋遺跡（B地点調査）の発掘調査での測量、写真撮影等は前原義之・近藤真が、芋内遺跡（1次調査）の確認調査での測量、写真撮影等は石川和弘・今平利幸が、芋内遺跡（2次調査）の発掘調査での測量、写真撮影等は仲沢卓・今平利幸がこれにあたった。
- 6 遺構・遺物の整理、実測などは、中山真理、倉田有子、澤村有紀子、小林順子の協力を得て、清地良太がこれにあたった。また、遺物の写真撮影は、清地良太、中山真理、倉田有子がこれにあたった。
- 7 本書の執筆は第Ⅰ章を清地良太が、第Ⅱ章を今平利幸がこれにあたった。
- 8 本墳出土の遺物及び図面・写真は、宇都宮市教育委員会で保管している。
- 9 発掘調査の関係者は次のとおりである。

[調査主体]

[指導助言]

宇都宮市文化財保護審議委員会委員 竹澤 謙

”

橋本澄朗

(平成23年度)

宇都宮市教育委員会 教育長 伊藤文雄

教育次長 手塚敏男

調査担当 文化課長 高橋充史

文化課長補佐 伊藤泰拓

文化財保護係長 大塚雅之

文化財保護係 江川尚美・今平利幸・石川和弘・君島直人

前原義之・近藤真・阿部雅子・柴正美・降幡敏彦

(平成24年度)

宇都宮市教育委員会	教育長	水越久夫
	教育次長	手塚敏男
調査担当	文化課長	赤石澤亮
	文化課長補佐	鈴木光世
	文化財保護係長	富川努
	文化財保護係	江川尚美・今平利幸・石川和弘・君島直人 前原義之・近藤真・阿部雅子・降幡敏彦・仲沢隼

[調査補助員] 新井みや子・入江タカ子・入江つや子・入江通子・篠原信子・住谷昭
高松米子・日高澄子

- 10 発掘調査の実施並びに本書の作成にあたっては、栃木県教育委員会の指導を受けるとともに次の諸機関及び諸氏のご指導を賜った。記して感謝を表したい。(順不同、敬称略)
- (財)とちぎ生涯学習文化財団、小島豪一郎

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構が1/60とし、遺物は1/3、2/3で示した。また、遺物実測図番号は遺構平断面図の番号及び図版の遺物番号と一致する。
2. 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
3. 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ローム粒…LR ロームブロック…LB 今市パミス…IP 七本桜パミス…SP 炭化物…C
4. 遺構においては次の略号を使用した。
竪穴住居跡…SI 土坑…SK 不明…SX

目 次

第Ⅰ章 二軒屋遺跡

1 はじめに	
(1) 調査の経過	1
(2) 遺跡の環境	2
2 調査概要	
(1) A地点の調査概要	4
(2) B地点の調査概要	9
3 おわりに	25

第Ⅱ章 芋内遺跡

1 はじめに	
(1) 調査の経過	26
(2) 遺跡の環境	27
2 調査概要	
(1) 古代の遺構と遺物	30
(2) その他の遺構と遺物	31
3 おわりに	44

挿 図 目 次

《二軒屋遺跡》

第1図	調査区位置図	1
第2図	周辺遺跡分布図	3
第3図	A地点調査全体図(1/50)	4
第4図	SK平面図・断面図	6
第5図	SK出土遺物実測図	7
第6図	SK出土遺物実測図	8
第7図	B地点調査区全体図(1)(1/80)	9
第8図	B地点調査区全体図(2)(1/50)	10・11
第9図	SI-01平面図・断面図	12
第10図	SI-01出土遺物実測図	12
第11図	SI-03平面図・断面図	13
第12図	SI-03出土遺物実測図	13
第13図	SI-04平面図・断面図	13
第14図	SI-04出土遺物実測図	14
第15図	SI-05平面図・断面図	15
第16図	SI-05出土遺物実測図	15
第17図	SK-01~17平面図・断面図	16
第18図	SK-01~17断面図・実測図	17
第19図	SI-02平面図・断面図	18
第20図	SI-02出土遺物実測図	19
第21図	SD-03平面図・断面図	20
第22図	SD-03出土遺物実測図	20
第23図	遺構外出土遺物実測図(1)	21
第24図	遺構外出土遺物実測図(2)	22
第25図	遺構外出土石器実測図	23

《芋内遺跡》

第26図	調査区位置図	26
第27図	周辺遺跡分布図(1:25,000)	29
第28図	調査区全体図(1/150)	32
第29図	SI-01平・断面図/SI-01カマド	33
第30図	SI-02平・断面図/SI-02カマド	34
第31図	SI-03平・断面図/SI-03カマド	35
第32図	SI-04平・断面図/SI-04カマド	36
第33図	SI-05平・断面図/SI-05カマド	37
第34図	SI-06平・断面図/SI-06カマド	38
第35図	SI-01出土遺物実測図	39

第36図	SI-02出土遺物実測図	39
第37図	SI-03出土遺物実測図	40
第38図	SI-04出土遺物実測図	40
第39図	SI-06出土遺物実測図	41
第40図	SI-06出土遺物実測図	41
第41図	遺構外出土遺物実測図	41
第42図	遺構変遷図	44

表 目 次

《二軒屋遺跡》

第1表	周辺遺跡一覧表	2
第2表	SI-02遺物観察表	19
第3表	SD-03遺物観察表	21
第4表	遺構外出土遺物観察表	22
第5表	遺構外出土石器観察表	24

《芋内遺跡》

第6表	周辺遺跡一覧表	28
第7表	SI-01遺物観察表	42
第8表	SI-02遺物観察表	42
第9表	SI-03遺物観察表	42
第10表	SI-04遺物観察表	43
第11表	SI-05遺物観察表	43
第12表	SI-06遺物観察表	43
第13表	遺構外遺物観察表	43

図 版 目 次

PL1	SK-01~04完掘状況(南東から)
	SK-08~11、13~20完掘・半掘(南東から)
	SK-01セクション(北から)
	SK-01完掘状況(南から)
	SK-02・03・21セクション(南から)
	SK-02・03・21完掘状況(東から)
	SK-04セクション(南から)
	SK-04完掘状況(南から)
PL2	SK-05・06・07セクション(北から)
	SK-08セクション(南から)
	SK-08・19完掘状況(南から)
	SK-09・10・11セクション(南から)

	SK-09・10・11セクション (南から)		SI-05セクション (東から)
	SK-09・18セクション (東から)		SI-05遺物確認状況 (北から)
	SK-11セクション (南から)		SI-05遺物確認状況 (北から)
	SK-12セクション (南から)		SI-05遺物出土状況 (南から)
PL3	SK-12完掘状況 (西から)		SI-05遺物出土状況 (北から)
	SK-13セクション (南から)	PL8	SI-05完掘 (北から)
	SK-13焼土と遺物出土状況 (南から)		SI-05炉跡完掘 (北から)
	SK-14・20号セクション (南西から)		東西セクション2本 (南から)
	SK-15・16セクション (東から)		東西セクション南側1 (カクラン付近)
	SK-15セクション (東から)		(南から)
	SK-16セクション (南東から)		東西セクション南側2 (SI-01・SI-05)
	SK-17完掘状況 (東から)		(南から)
PL4	SK-01・02 (南から)		東西セクション南側3 (SI-01・SI-04)
	SI-02完掘 (南西から)		(南から)
	SI-02完掘 (北東から)		東西セクション北側1 (SI-01・SI-04)
	SI-02完掘 (北西から)		(南から)
	SI-02北壁面セクション (南から)		東西セクション北側2 (SI-01・SI-05)
	SI-02遺物出土状況 (北から)		(南から)
	SI-02・SD-03セクション (南東から)	PL9	東西セクション北側3 (SI-03・SI-05)
	SD-03遺物出土状況 (北西から)		(南から)
PL5	SD-03遺物出土状況 (南東から)		東西セクション北側4 (SI-03) (南から)
	SD-03完掘 (南東から)		SK-04セクション (南から)
	SD-03完掘 (北西から)		SK-05セクション (南から)
	SK-06遺物出土状況 (北から)		SK-05 (南から)
	SK-06遺物出土状況 (北から)		SK-04・SK-05・攪乱 (北から)
	SK-06完掘・セクション (西から)		SK-08セクション (北から)
	SI-01遺物出土状況 (南から)		SK-10セクション (西から)
	SI-01遺物出土状況 (北から)	PL10	SK-08・SK-10完掘 (西から)
PL6	SI-01完掘 (南から)		SK-09セクション (北から)
	SI-01炉跡完掘 (西から)		SK-17セクション (西から)
	SI-03完掘 (西から)		SK-17完掘 (東から)
	SI-03東壁面セクション (西から)		SI-01・04・05遺物出土状況 (西から)
	SI-04完掘 (東から)		調査区全景 (南から)
	SI-04炉跡付近セクション (東から)		調査区全景 (東から)
	SI-04遺物出土状況 (西から)		調査区全景 (北東から)
	SI-04完掘 (南東から)	PL11	SI-01東西セクション (南から)
PL7	SI-04完掘 (北から)		SI-01南北セクション (東から)
	SI-04完掘 (西から)		SI-01完掘状況 (南から)
	SI-04炉跡完掘 (東から)		SI-01完掘状況 (西から)

	SI-01カマドセクション (西から)		SI-05東西セクション (東から)
	SI-01カマドセクション (南から)		SI-05カマド完掘状況 (南から)
	SI-01カマド完掘状況 (東から)		SI-05カマド完掘状況 (南から)
	SI-01カマド完掘状況 (南から)		SI-06東西セクション (北から)
PL12	SI-01完掘状況 (北東から)		SI-06南北セクション (東から)
	SI-01完掘状況 (南から)	PL17	SI-06遺物出土状況 (南から)
	SI-02南北セクション (西から)		SI-06遺物出土状況 (東から)
	SI-02東西セクション (南から)		SI-06ベルト設定状況 (東から)
	SI-02東西セクション (南から)		SI-06遺物出土状況 (東から)
	SI-02カマド付近遺物出土状況 (南から)		SI-06カマドセクション (東から)
	SI-02カマドセクション (南から)		SI-06カマドセクション (西から)
	SI-02カマドセクション (東から)	PL18	SI-06カマドセクション (西から)
PL13	SI-02完掘状況 (南から)		カマド完掘状況 (南から)
	SI-02完掘状況 (南から)		SI-06遺物出土状況 (北から)
	SI-03東西セクション (南から)		SI-06穴跡完掘状況 (東から)
	SI-03南北セクション (東から)		SI-06穴跡完掘状況 (東から)
	SI-03遺物出土状況 (東から)		SI-06完掘状況 (東から)
	SI-03遺物出土状況 (北から)		調査区全景 (西から)
	SI-03カマドセクション (南から)		調査区全景 (東から)
	SI-03カマドセクション (南から)	PL19	SK-01・02・06・13出土遺物
PL14	SI-03カマド完掘状況 (南から)		SK-16出土遺物
	SI-03完掘状況 (南から)		SK-08・15出土遺物
	SI-03遺物出土状況 (東から)		A地区遺構外出土遺物
	SI-03遺物出土状況 (東から)		SI-01出土遺物
	SI-03完掘状況 (東から)		SI-03出土遺物
	SI-03溝完掘状況 (西から)		石鍬
	SI-04南北セクション (西から)		石鍬
	SI-04東西セクション (南から)	PL20	SI-04出土遺物①
PL15	SI-04南北セクション (東から)		SI-04出土遺物②
	SI-04カマドセクション (東から)		SI-04出土遺物③
	SI-04カマドセクション (南から)		SI-04出土遺物④
	SI-04カマド完掘状況 (西から)		SI-05出土遺物①
	SI-04カマド遺物出土状況 (西から)		SI-05出土遺物②
	SI-04遺物出土状況 (北から)		SI-05出土遺物③
	SI-04遺物出土状況 (北から)	PL21	SK-08出土遺物
	SI-04完掘状況 (西から)		SK-09出土遺物
PL16	SI-05南北セクション (東から)		SK-10出土遺物
	SI-05東西セクション (南から)		SK-17出土遺物
	SI-05カマドセクション (南から)		SI-02出土遺物①

	SI-02出土遺物②		SI-03出土遺物①
	SI-02出土遺物③		SI-03出土遺物②
	SI-02出土遺物④		SI-03出土遺物③
PL22	SD-03出土遺物①		SI-03出土遺物④
	SD-03出土遺物②		SI-03出土遺物⑤
	SD-03出土遺物③	PL27	SI-03出土遺物⑥
	SD-03出土遺物④		SI-03出土遺物⑦
	SD-03出土遺物⑤		SI-04出土遺物①
	SD-03出土遺物⑥		SI-04出土遺物②
	SD-03出土遺物⑦		SI-04出土遺物③
PL23	B地点 遺構外出土遺物①		SI-04出土遺物④
PL24	B地点 遺構外出土遺物②		SI-04出土遺物⑤
	B地点 出土 石器		SI-04出土遺物⑥
PL25	SI-01出土遺物①	PL28	SI-05出土遺物①
	SI-01出土遺物②		SI-05出土遺物②
	SI-01出土遺物③		SI-05出土遺物③
	SI-01出土遺物④		SI-05出土遺物④
	SI-01出土遺物⑤		SI-06出土遺物①
	SI-01出土遺物⑥		SI-06出土遺物②
	SI-02出土遺物①		SI-06出土遺物③
	SI-02出土遺物②		SI-06出土遺物④
PL26	SI-02出土遺物③	PL29	SI-06出土遺物⑤
	SI-02出土遺物④		遺構外出土遺物①
	SI-02出土遺物⑤		遺構外出土遺物②

第 I 章

二軒屋遺跡

1 はじめに

(1) 調査の経過

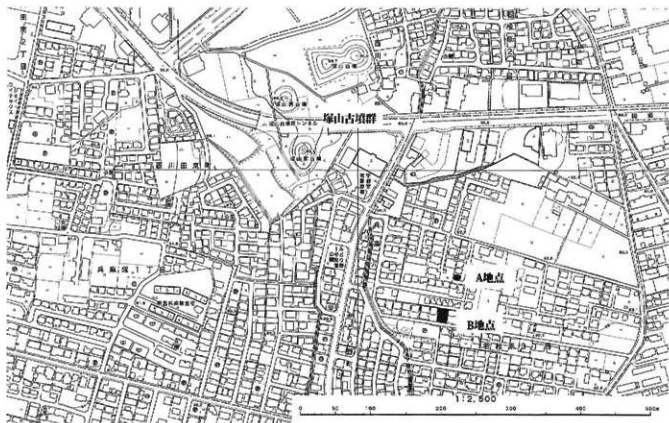
平成24年度は、宇都宮市若松原地内の二軒屋遺跡（県番号3223）で2箇所の発掘調査を実施した。便宜上、平成24年9月に実施した若松原三丁目117-175をA地点、平成25年3月に実施した若松原三丁目1116-20をB地点とする。両地点とも個人住宅建築に伴う発掘調査である。

A地点は、平成24年8月20日付けにて「埋蔵文化財包蔵地発掘の通知について」の届出が提出されたことから、県文化財課に递達した結果、8月24日付け文財第2-212号により確認調査の実施の指示があったため、事業主と協議を行い、9月12日から確認調査を実施することとなった。

9月12日に建築予定地内を重機で試掘した結果、土坑が数基確認されたため、建物の範囲を面的に広げたとろ土坑約20基及び柱穴約10基が確認された。事業者と協議し、引き続き発掘調査に移行することとなった。調査は14日まで行われ、縄文時代から古墳時代にかけての遺構を確認することができた。

B地点は、平成25年2月12日付けにて「埋蔵文化財包蔵地発掘の通知について」の届出が提出されたことから、県文化財課に递達した結果、2月14日付け文財第8-571号により確認調査の実施の指示があったため、事業主と協議を行い、3月11日から確認調査を実施することとなった。

3月11日に建築予定地内を重機で試掘した結果、縄文土器変片や土師器片が出土し、遺構も確認されたことから、建物の範囲を面的に広げ、事業者と協議の上、引き続き発掘調査に移行することとなった。調査は30日まで行われ、縄文時代から古墳時代にかけての遺構を確認することができた。



第1図 調査区位置図

(2) 遺跡の環境

二軒屋遺跡の所在する宇都宮市は、栃木県の中央部に位置し、関東平野の最奥部にあたる。本遺跡は、宇都宮市中心部から南へ約6.5kmの若松原地内に所在し、姿川と田川に挟まれた宝木台地上に立地する。

次に、本遺跡周辺の歴史的環境について、本遺跡と関連のある縄文～古墳時代の概略を述べる。

縄文時代 中期～晩期にかけての石川坪遺跡、鳴神遺跡(23)がある。石川坪遺跡では、中期の加曽利E式や後期の称名寺式・堀之内式、晩期の安行式などの土器が出土している。鳴神遺跡では、台付注口土器などが出土している。

弥生時代 中期は、塚山古墳群(4)内の塚山西古墳を宇都宮大学考古学研究会で調査した際に、弥生時代中期末の土器が出土している。本遺跡より北東約4kmに所在する本村遺跡でも中期後半の土器が出土している。後期になると、本遺跡のほか、若松原南遺跡(2)、西原北遺跡(11)、天狗原雀宮中前遺跡(18)、針ヶ谷新田遺跡(60)など兵庫川流域に集落が点在するようになる。針ヶ谷新田遺跡では、二軒屋式期の堅穴住居跡が6軒確認され、当時の集落の様子がわかる好例である。

古墳時代 前期は、天狗原雀宮中前遺跡(18)、溜西南遺跡(61)など、弥生時代後期の集落と同じような地域に集落が展開する。また、牛塚東遺跡(56)では方墳が2基確認されたほか、本遺跡から南東約3.5kmの茂原地内に大日塚古墳、愛宕塚古墳、権現山古墳の3基の前方後方墳が連続して築造される。

中期は、市内で2番目に大きな前方後円墳である塚山古墳が5世紀後半に築造されると、その後、塚山西古墳、塚山南古墳が連続して造られる。この他に、画文帯神像鏡が出土した牛塚古墳(57)、乳文鏡が出土した城南3丁目遺跡1号墳が同台地縁辺上に所在する。この時期の集落跡は、北若松原遺跡(3)、おしめ尽遺跡(38)、雷電山遺跡(39)である。

後期は、綾女塚古墳(53)で埴輪が見つかっているが、針ヶ谷新田古墳群(32)、十里木古墳(52)は埴輪を持たず、横穴式石室をもつ古墳である。この時期の集落跡は、関道遺跡(41)、宮の内遺跡(50)などがある。

№	遺跡名	所在地	時代と類別	№	遺跡名	所在地	時代と類別
1	二軒屋遺跡	宮宮町	縄文・弥生・古墳時代の集落跡	32	針ヶ谷新田古墳群	針ヶ谷町	古墳時代の古墳
2	若松原遺跡	宮宮町	縄文・弥生・古墳時代の集落跡	33	真珠原西原遺跡	真珠原町	古墳・奈良時代の集落跡
3	北若松原遺跡	宮宮町	古墳・奈良時代の集落跡	34	寺前北遺跡	塚田町	古墳・奈良時代の集落跡
4	塚山古墳群	西川町	古墳時代の古墳	35	東原塚古墳	塚田町	古墳時代の古墳
5	一貫堂院付近遺跡	宮宮町	古墳時代の集落跡	36	自衛隊敷設所北遺跡	城南3丁目	縄文時代の集落跡
6	塚山北遺跡	西川町	古墳時代の集落跡	37	屋ヶ丘小北遺跡	江曾島町	奈良時代の集落跡
7	小野塚原北遺跡	兵庫区	古墳時代の集落跡	38	おしめ尽遺跡	江曾島町	古墳・奈良・平安時代の集落跡
8	馬マケット前遺跡	兵庫区	縄文時代の集落跡	39	雷電山遺跡	江曾島町	古墳時代の集落跡
9	相ヶ丘塚原北遺跡	兵庫区	縄文時代の集落跡	40	雲巻遺跡	江曾島町	古墳・奈良時代の集落跡
10	相ヶ丘塚原遺跡	兵庫区	縄文時代の集落跡	41	関道遺跡	江曾島町	古墳・奈良時代の集落跡
11	西原北遺跡	宮宮町	縄文・弥生・古墳時代の集落跡	42	江曾島北遺跡	江曾島町	古墳・奈良・平安時代の集落跡
12	北若松原遺跡	宮宮町	古墳時代の集落跡	43	江曾島北原南遺跡	江曾島町	縄文・奈良時代の集落跡
13	北若松原遺跡	兵庫区	古墳・奈良・平安時代の集落跡	44	西原南遺跡	田川町	縄文・古墳・奈良・平安時代の集落跡
14	雀の宮3丁目遺跡	雀の宮3丁目	古墳時代の集落跡	45	台内手古墳群	江曾島町	古墳時代の古墳
15	大谷田遺跡	宮宮町	奈良・平安時代の集落跡	46	大島神社古墳	上横田町	古墳時代の古墳
16	二子塚北遺跡	針ヶ谷町	弥生時代の集落跡	47	大原林遺跡	上横田町	古墳・奈良・平安時代の集落跡
17	二子塚古墳	針ヶ谷町	古墳時代の古墳	48	城南3丁目遺跡	城南3丁目	奈良・平安時代の集落跡
18	天狗原雀宮中前遺跡	宮宮町	縄文・弥生・古墳時代の集落跡	49	城南3丁目南遺跡	城南3丁目	奈良・平安時代の集落跡
19	高の原遺跡	針ヶ谷町	縄文・古墳・奈良時代の集落跡	50	宮の内遺跡	宮の内1丁目	古墳・奈良・平安時代の集落跡
20	北若松原遺跡	宮宮町	縄文・奈良時代の集落跡	51	本町長原西原遺跡	本町	縄文時代の集落跡
21	北若松原遺跡北遺跡	宮上見町	縄文・古墳時代の集落跡	52	十里木古墳	宮宮町	古墳時代の古墳
22	関田山遺跡	針ヶ谷町	古墳・奈良・平安時代の集落跡	53	綾女塚古墳	宮宮町	古墳時代の古墳
23	鳴神遺跡	針ヶ谷町	縄文・奈良時代の集落跡	54	宮宮東原遺跡	宮宮町	奈良時代の集落跡
24	赤岩遺跡	針ヶ谷町	縄文・古墳時代の集落跡	55	宮宮東原遺跡	宮宮町	奈良時代の集落跡
25	三ツ矢遺跡	針ヶ谷町	縄文・奈良時代の集落跡	56	牛塚東遺跡	宮宮町	奈良時代の集落跡
26	宝木遺跡	針ヶ谷町	縄文・古墳・奈良時代の集落跡	57	牛塚古墳	宮宮町	古墳時代の古墳
27	石川坪遺跡	針ヶ谷町	縄文・弥生・奈良時代の集落跡	58	石川坪南原遺跡	Y字町	古墳時代の集落跡
28	文新原遺跡	針ヶ谷町	古墳・奈良時代の集落跡	59	多功塚古墳	虎野町	古墳時代の古墳
29	鳴神神社南遺跡	針ヶ谷町	奈良時代の集落跡	60	針ヶ谷新田遺跡	針ヶ谷町	弥生・古墳時代の集落跡
30	上野新田遺跡	針ヶ谷町	縄文・弥生・古墳・奈良時代の集落跡	61	溜西南遺跡	茂原町	古墳・奈良・平安時代の集落跡
31	上野原遺跡	針ヶ谷町	弥生・古墳・奈良時代の集落跡				

第1表 周辺遺跡一覧表

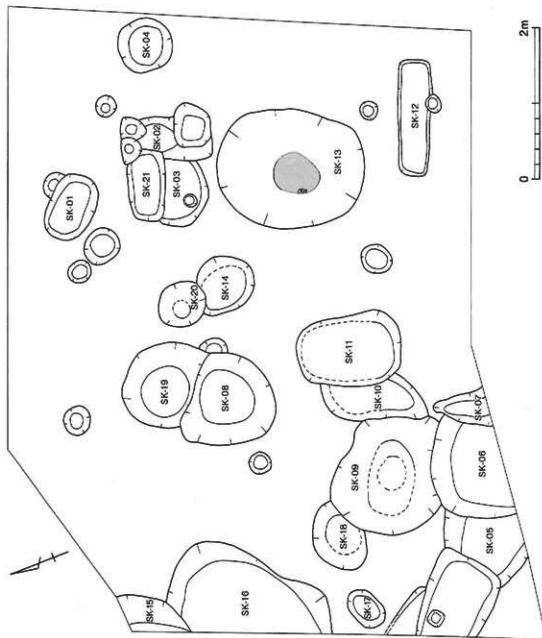


第2図 周辺遺跡分布図

2 調査概要

(1) A地点の調査概要

A地点の調査では、土坑が21基確認した。以下、それぞれの遺構について記す。



第3図 A地点調査全体図 (1/50)

①土坑

SK-01 (第4・5図)

規模・形状 南北0.9m×東西0.6mの隅丸長方形 **重複関係** なし **壁・底面** 確認面からの深さは20cm、床面はローム地山。 **覆土の状況** 自然堆積 **遺物** 実測可能な遺物は縄文土器片が1点出土した。1は、胴部片で、地文にRL縦位の縄文を施し、沈線で区切られた磨り消し手法による懸垂文を施す。

SK-02 (第4・5図)

規模・形状 南北1.2m×東西0.6mの長方形 **重複関係** SK-03・SK-21を切る。 **壁・底面** 確認面からの深さは15cm、床面はローム地山。 **覆土の状況** 自然堆積 **遺物** 実測可能な遺物は縄文土器の口縁部片が1点出土した。2は、胴部にはLR縦位の縄文を施す。

SK-03 (第4図)

規模・形状 南北1m×東西1mの長方形 **重複関係** SK-03・SK-21に切られる。 **壁・底面** 床面はローム地山。 **覆土の状況** 不明 **遺物** 土器片は出土しているが、実測可能な遺物はない。

SK-04 (第4図)

規模・形状 南北0.7m×東西0.7mの長方形 **重複関係** なし **壁・底面** 確認面からの深さは30cm、床面はローム地山。 **覆土の状況** 自然堆積 **遺物** 出土していない。

SK-05 (第4図)

規模・形状 南北1.2m×東西1mの不整形 **重複関係** SK-06に切られる。 **壁・底面** 確認面からの深さは32cm、床面はローム地山。 **覆土の状況** 自然堆積 **遺物** 出土していない。

SK-06 (第4・5図)

規模・形状 南北1.2m×東西0.9mの隅丸方形 **重複関係** SK-05を切り、SK-07に切られる。 **壁・底面** 確認面からの深さは41cm、床面はローム地山。 **覆土の状況** 自然堆積 **遺物** 実測可能な遺物は縄文土器片が1点出土した。1は、胴部にはRL横位の縄文を施す。

SK-07 (第4図)

規模・形状 南北0.7m×東西0.5mの不整形長方形 **重複関係** SK-06を切る。 **壁・底面** 確認面からの深さは43cm、床面はローム地山。 **覆土の状況** 自然堆積 **遺物** 出土していない。

SK-08 (第4・5図)

規模・形状 南北1.1m×東西1.1mの円形 **重複関係** SK-19を切る。 **壁・底面** 確認面からの深さは37cm、床面はローム地山。 **覆土の状況** 自然堆積 **遺物** 実測可能な遺物は弥生土器が5点出土した。1は、複合口縁部片である。2～4は、胴部片である。2は、櫛描直線文を施す。3は、櫛描波状文を施す。4は、付加条1種を施す。5は、底部片で、胴部に付加条2種を施す。

SK-09 (第4図)

規模・形状 南北1.6m×東西1.1mの不整形円形 **重複関係** SK-10・SK-18を切る。 **壁・底面** 確認面からの深さは75cm、床面はローム地山。 **覆土の状況** 自然堆積 **遺物** 出土していない。

SK-10 (第4図)

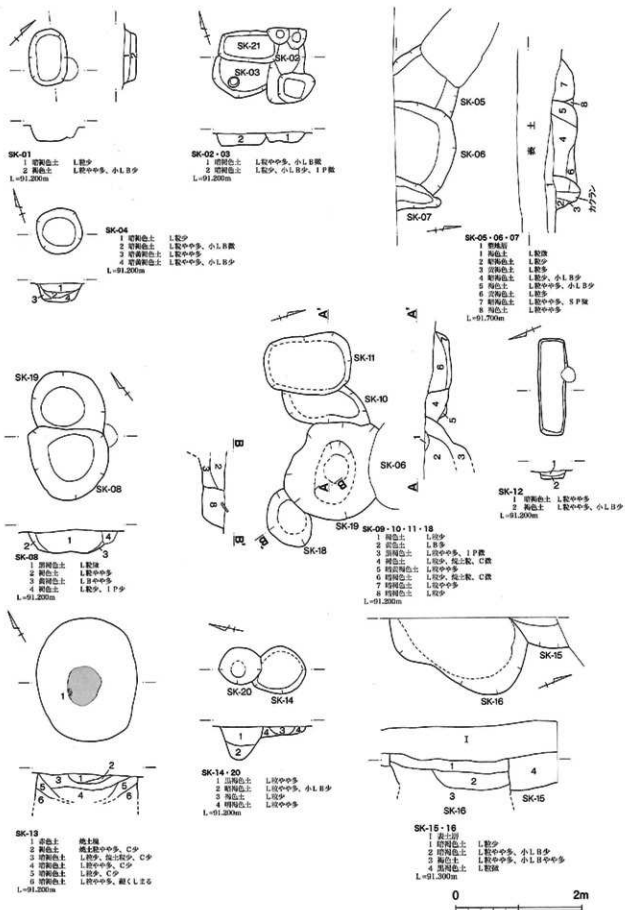
規模・形状 南北1.3m×東西0.5mの不整形長方形 **重複関係** SK-09・SK-11に切られる。 **壁・底面** 確認面からの深さは34cm、床面はローム地山。 **覆土の状況** 自然堆積 **遺物** 出土していない。

SK-11 (第4図)

規模・形状 南北1.4m×東西1.0mの隅丸長方形 **重複関係** SK-10を切る。 **壁・底面** 確認面からの深さは34cm、床面はローム地山。 **覆土の状況** 自然堆積 **遺物** 出土していない。

SK-12 (第4図)

規模・形状 南北1.5m×東西0.4mの長方形 **重複関係** なし。 **壁・底面** 確認面からの深さは



第4图 SK平面图・断面图

12cm、床面はローム地山。 覆土の状況 自然堆積 遺物 出土していない。

SK-13 (第4・5図)

規模・形状 南北1.9m×東西1.5mの円形 重複関係 なし。 壁・底面 袋状土坑と考えられる。

覆土の状況 自然堆積 遺物 実測可能な遺物は縄文土器片が1点出土した。1は、胴部片で縄文を施す。備考 土坑中央付で確認面から15cmの焼土層が確認される。

SK-14 (第4図)

規模・形状 南北0.7m×東西0.6mの円形 重複関係 SK-20に切られる。 壁・底面 確認面からの深さは17cm、床面はローム地山。 覆土の状況 自然堆積 遺物 出土していない。

SK-15 (第4・5図)

規模・形状 南北0.7m×東西1m 重複関係 SK-16に切られる。 壁・底面 確認面からの深さは54cm、床面はローム地山。 覆土の状況 自然堆積 遺物 実測可能な遺物は弥生土器が1点出土した。1は、胴部片で、付加条2種を施す。

SK-16 (第4・5図)

規模・形状 南北1.9m×東西1mの不整楕円形 重複関係 SK-15を切る。 壁・底面 確認面からの深さは48cmで袋状土坑、床面はローム地山。 覆土の状況 自然堆積 遺物 1は、底部片であり、地文にRL縦位の縄文を施し、沈線で区切られた磨り消し手法による懸垂文を施す。2は、土製円盤である。

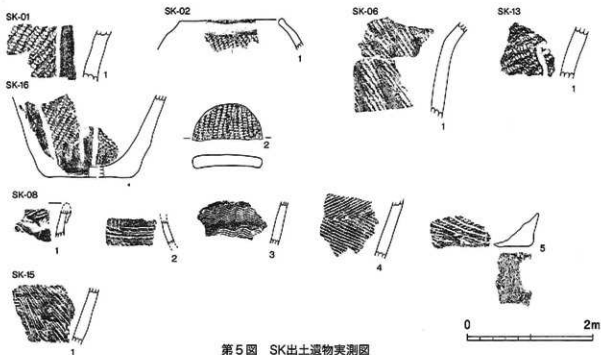
SK-17 (第4図)

規模・形状 南北0.6m×東西0.3mの楕円形 重複関係 なし。 壁・底面 床面はローム地山。

覆土の状況 不明 遺物 出土していない。

SK-18 (第4図)

規模・形状 南北0.9m×東西0.6mの楕円形 重複関係 SK-09に切られる。 壁・底面 確認面からの深さは36cm、床面はローム地山。 覆土の状況 自然堆積 遺物 出土していない。



第5図 SK出土遺物実測図

SK-19 (第4図)

規模・形状 南北1.1m×東西0.9mの円形 重複関係 SK-08に切られる。壁・底面 床面はローム地山。覆土の状況 自然堆積 遺物 出土していない。

SK-20 (第4図)

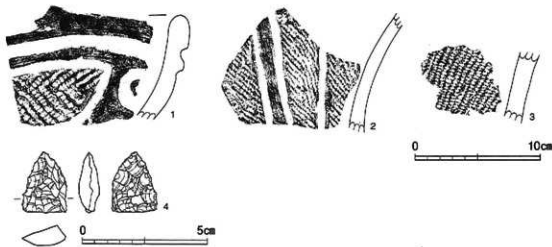
規模・形状 南北0.7m×東西0.5mの円形 重複関係 SK-14を切る。壁・底面 確認面からの深さは52cm、床面はローム地山。覆土の状況 自然堆積 遺物 出土していない。

SK-21 (第4図)

規模・形状 南北0.8m×東西0.5mの円形 重複関係 SK-03を切り、SK-02に切られる。壁・底面 確認面からの深さは18cm、床面はローム地山。覆土の状況 自然堆積 遺物 出土していない。

②遺構外出土遺物

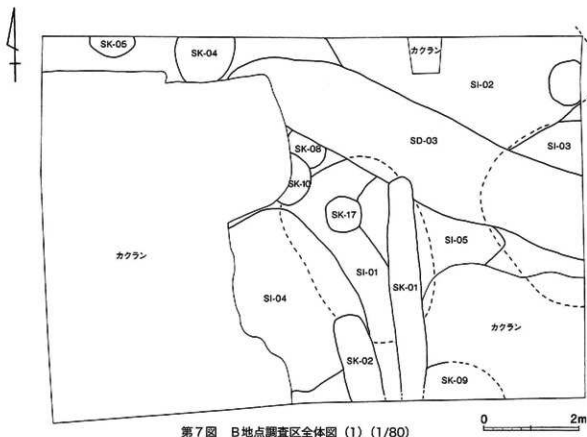
1は、小波状を呈する口縁部片である。口縁部は隆帯とそれに伴う沈線によって区画文を施し、区画文内には羽状のRL縄文を施す。2は、胴部片で、地文にRL横位の縄文を施し、沈線で区切られた磨り消し手法による懸垂文を施す。3は、胴部片で、RL縦位の縄文を施す。4は、平面形は二等辺三角形を呈し、基部は平基である。最大長は24mm、最大幅は17mm、厚さ7.5mm、重量は3.01gで、石質はチャートである。



第6図 SK出土遺物実測図

(2) B地点の調査概要

B地点の調査では、縄文時代の竪穴住居跡4軒、土坑6基、古墳時代の竪穴住居跡1軒、土坑1基、溝跡1条が確認された。以下、それぞれの遺構について記す。



第7図 B地点調査区全体図(1) (1/80)

①縄文時代の遺構と遺物

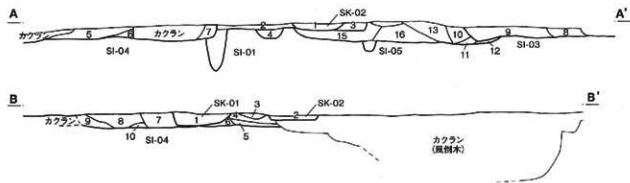
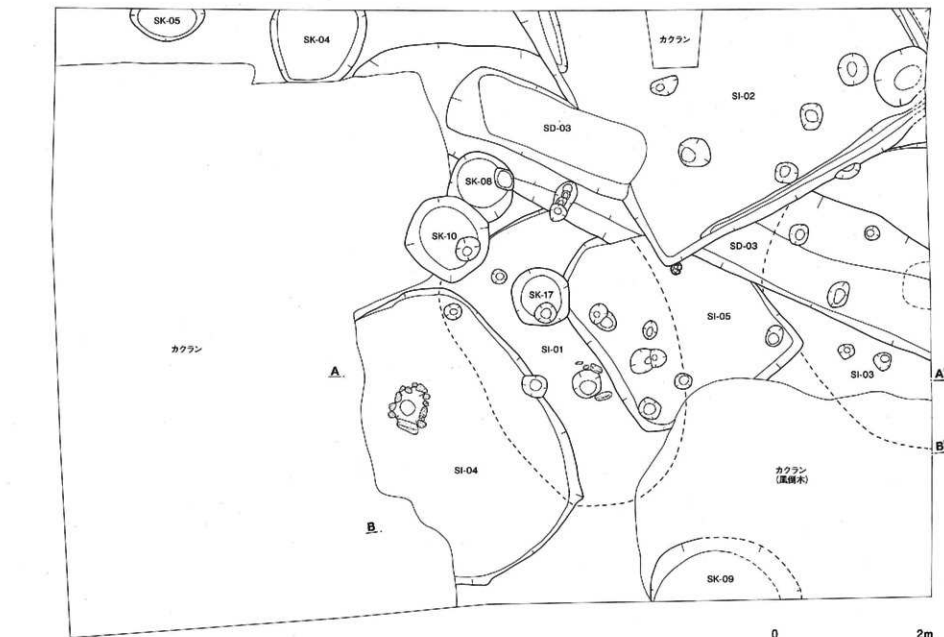
1) 竪穴住居跡

SI-01 (第9・10図)

規模・形状 不明。**床面の状況** 床面はローム地山壁西側の一部に立ち上がりを残す。柱穴ピットは12本確認され、そのうち壁柱穴と考えられるピットが3本確認された。**炉** 深さ12cmの焼土層の周囲に被熱した石が出土しており、石囲炉と考えられる。**覆土の状況** 不明。**重複関係** SI-04・SI-05・SK-01・SK-02・SK-10・SK-17・SD-03に切られる。**遺物** 1は、小波状を呈する口縁部片である。口縁部は隆帯とそれに伴う沈線によって渦巻文と区画文を施し、区画文内にはLR横位の縄文を施す。2・3は、底部片である。7は、未成品の石鏃である。平面形は台形状を呈し、基部は凹基である。最大長は20mm、最大幅は17mm、厚さ3mm、重量は1.18gで、石質はチャートである。

SI-03 (第11・12図)

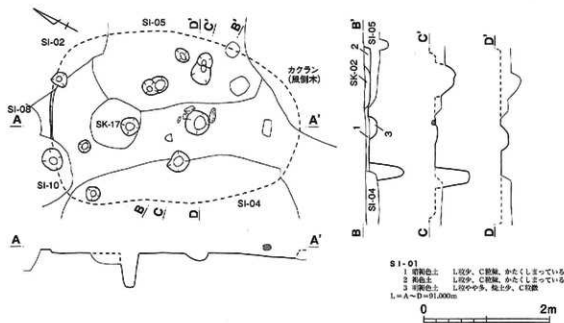
規模・形状 明確なプランが確認できないが、不整円形と推定される。**床面の状況** ローム地山壁北側及び西側の一部に立ち上がりを残す。**柱穴** 柱穴と思われるピットが6本確認された。**炉** 建物中央から地床炉であり、長軸4mを測る。**覆土の状況** 不明**重複関係** SI-02・SI-05に切られる。**遺物** 1は、胴部片である。地文にはRL縦位の縄文を施し、



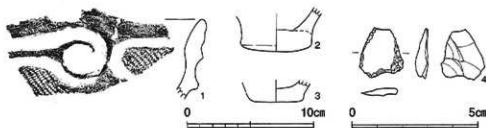
- S101・S104・S105・SK02 (本調査調査セクション)**
- 1 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 2 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 3 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 4 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 5 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 6 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 7 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 8 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 9 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 10 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 11 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 12 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 13 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 14 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 15 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
- L=01,000mm

- SK01・SK02・S101・S104・S105 (補調査調査セクション)**
- 1 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 2 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 3 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 4 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 5 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 6 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 7 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 8 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 9 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
 - 10 遺構内土 L:厚さ、C:形状、おたくしまっている
- L=01,200mm

第8図 B地点調査区全体図 (2) (1/50)



第9図 SI-01平面図・断面図

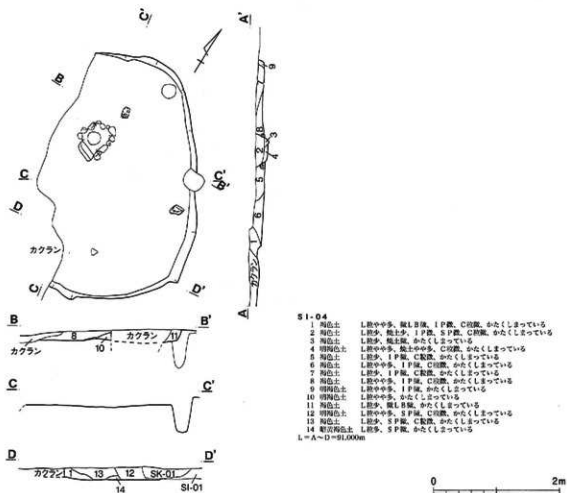
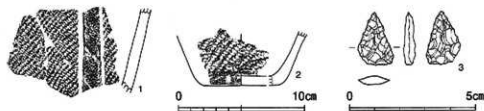
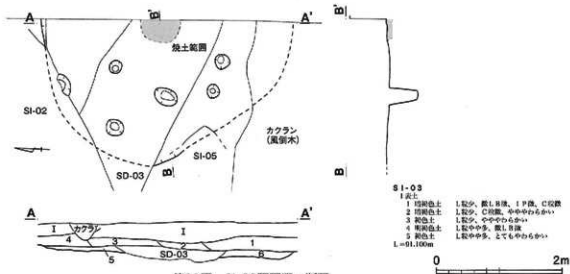


第10図 SI-01出土遺物実測図

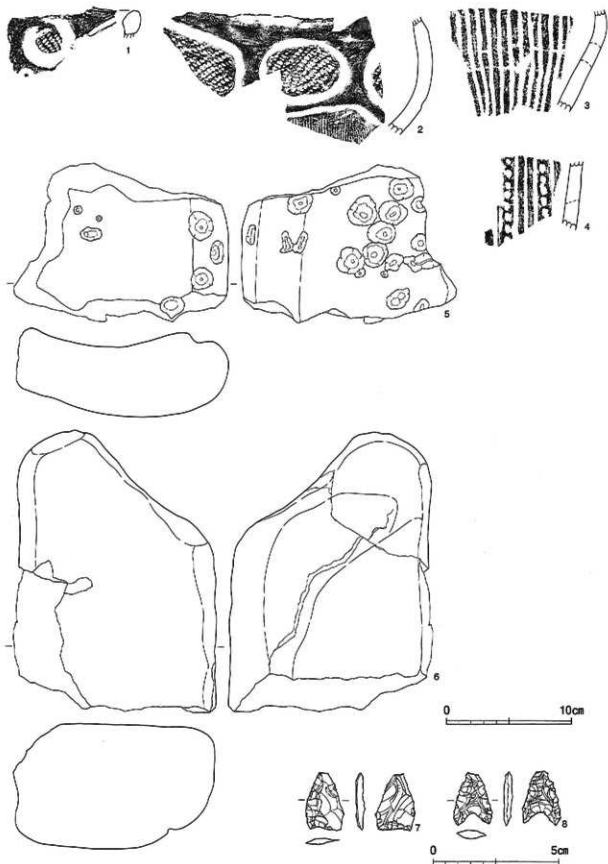
平行沈線で区切られた磨り消し手法による懸垂文を施す。2は、胴部から底部にかけての破片である。胴部にはR L縦位の縄文を施す。3は、石鏃である。平面形は二等辺三角形を呈し、基部は平基である。最大長は21mm、最大幅は13mm、厚さ3.5mm、重量0.97gで、石質はチャートである。

SI-04 (13・14図)

規模・形状 長軸384cmの隅丸長方形。 **床面の状況** 床面はローム地山。 **壁** 確認面からの深さ17cm。 **柱穴** 柱穴と思われるピットが3本確認された。 **炉** 石囲炉。 **覆土の状況** 自然堆積。 **重複関係** SI-01・SD-01に切られる。 **遺物** 1は、口縁部片である。口縁部文様帯は沈線によって区画文を施し、区画文にはR L縦位の縄文を施す。2は、胴部片である。沈線によって円形と楕円形の区画文を施し、文様帯内にはL R縦位の縄文を施す。3は、胴部片である。垂直方向の条線が施される。4は、胴部片である。地文に垂直方向の条線を施し、条線と条線の間には刺突文を施す。5は、蜂の巣石である。6は、石皿である。7・8は、石鏃である。7は、平面形は二等辺三角形を呈し、基部は平基である。最大長は22.5mm、最大幅は15mm、厚さ2.5mm、重量0.85gで、石質はチャートである。8は、平面形は台形状を呈し、基部は凹基である。最大長は21mm、最大幅は15mm、厚さ3mm、重量は0.85gで、石質はチャートである。



- SI-04
- | | |
|----------|---------------------------------------|
| 1 褐色土 | L.数中多, 焼土B層, I P層, C段層, かなりしまっている |
| 2 褐色土 | L.数少, 焼土少, I P層, S P層, C段層, かなりしまっている |
| 3 褐色土 | L.数少, 焼土層, かなりしまっている |
| 4 明褐色土 | L.数中多, 焼土中多, C段層, かなりしまっている |
| 5 褐色土 | L.数少, I P層, C段層, かなりしまっている |
| 6 褐色土 | L.数中多, I P層, C段層, かなりしまっている |
| 7 褐色土 | L.数少, I P層, C段層, かなりしまっている |
| 8 褐色土 | L.数中多, I P層, C段層, かなりしまっている |
| 9 明褐色土 | L.数中多, I P層, かなりしまっている |
| 10 明褐色土 | L.数中多, かなりしまっている |
| 11 褐色土 | L.数少, 焼土B層, かなりしまっている |
| 12 明褐色土 | L.数中多, S P層, C段層, かなりしまっている |
| 13 褐色土 | L.数少, S P層, C段層, かなりしまっている |
| 14 軽灰褐色土 | L.数少, S P層, かなりしまっている |
- L=A~D=91,000m

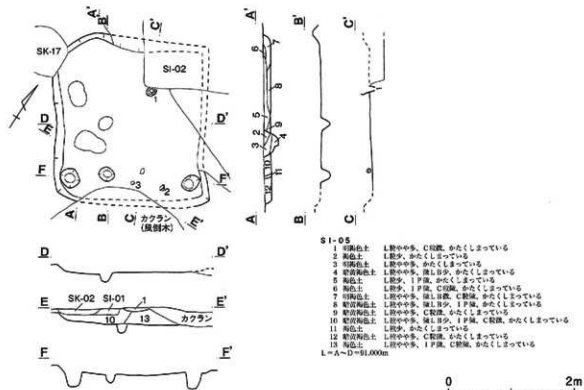


第14图 SI-04出土遗物实测图

SI-05 (第15・16図)

規模・形状 南北2.6m×東西2.4mの方形 床面の状況 床面はローム地山 壁 確認面からの深さ13cm. 柱穴 不明. 炉 不明. 覆土の状況 不明. 重複関係 SI-1・SI-2を切る.

遺物 1は、深鉢形土器である。口縁部は、隆帯とそれに伴う沈線によって渦巻文と区画文を施し、文様帯内にR L横位の縄文を施す。胴部は、地文にR L縦位の縄文を施し、3条の沈線が垂下する。2は、小波状を呈する口縁部片である。口縁部文様帯は隆帯とそれに伴う沈線によって渦巻文と区画文を施し、文様帯内にはR L縦位の縄文を施す。3は、口縁部片である。口縁部は沈線によって区画文を施し、区画文内にはR L斜位の縄文を施す。



第15図 SI-05 平面図・断面図



第16図 SI-05出土遺物実測図

②土坑

SK-04 (第17・18図)

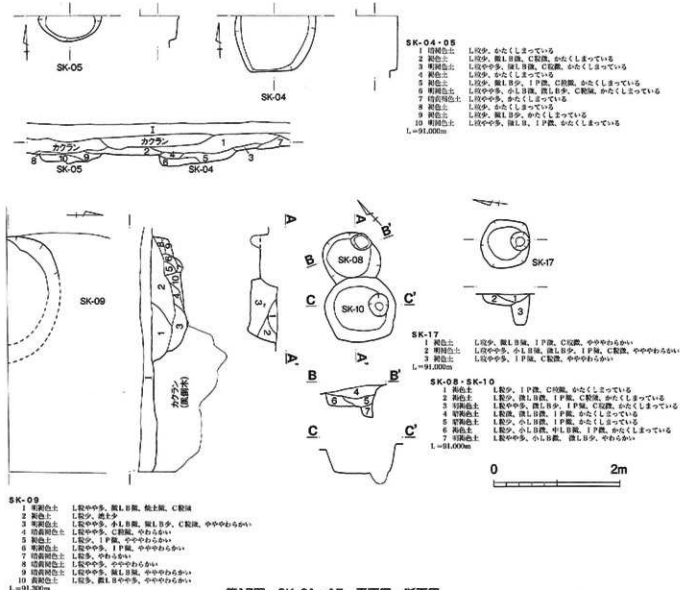
規模・形状 南北1.2m×東西1mの隅丸方形。重複関係 なし。壁・底面 確認面からの深さは22cm、床面はローム地山。覆土の状況 自然堆積。遺物 1は、小波状を呈する口縁部片である。口縁部は、円形刺突文を1列に施す。隆帯によって区画文を施し、区画文内にRL縦位の縄文を施す。2は、沈線による区画文を施し、区画文内にLR縦位の縄文を施す。3は、胴部片である。微隆起線によって無文帯と縄文帯を区分する。

SK-05 (第17・18図)

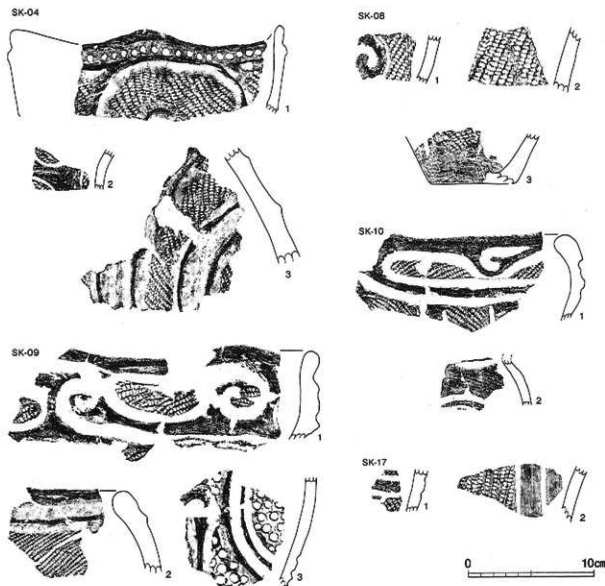
規模・形状 南北0.9m×東西1mの円形 重複関係 なし。壁・底面 確認面からの深さは17cm、床面はローム地山。覆土の状況 自然堆積。遺物 出土していない。

SK-08 (第17・18図)

規模・形状 南北0.9m×東西0.7mの円形 重複関係 SD-03に切られる。SK-10と切りあう。壁・底面 確認面からの深さは30cm、床面はローム地山。覆土の状況 自然堆積 遺物 1は、沈線による渦巻文を施し、RL縦位の縄文を施す。2は、RL縦位の縄文を施す。3は、



第17図 SK-01~17 平面図・断面図



第18図 SK-01~17 出土遺物実測図

底径6.9cmの底部片である。地文にL R縦位の縄文を施し、2条の沈線が下垂する。

SK-09 (第17・18図)

規模・形状 南北1m×東西1mの円形 **重複関係** カクランに切られる。 **壁・底面** 確認面からの深さは56cm、床面はローム地山。 **覆土の状況** 自然堆積 **遺物** 1は、小波状を呈する口縁部片である。口縁部は隆帯とそれに伴う沈線によって渦巻文と楕円区画文を施し、区画内にはL R横位の縄文を施す。胴部には、L R横位の縄文を施す2は、口縁部片である。口縁部は、横位の隆枕線を施し、胴部はL R横位の縄文を施す。3は、胴部片である。2条の沈線によって胴部を区画し、刺突文を施す。

SK-10 (第17・18図)

規模・形状 南北1.2m×東西1mの円形 **重複関係** S I-01を切り、SK-08と切りあう。 **壁・底面** 確認面からの深さは45cm、床面はローム地山。 **覆土の状況** 自然堆積 **遺物** 1は、口縁部片である。口縁部は沈線によって渦巻文と楕円区画文を施し、区画内にはL R横位の縄文

を施す。胴部は、地文にR L横位の縄文を施し、2条の平行沈線で区切られた磨り消し手法による懸垂文を施す。2は、胴部片である。微隆起線によって無文帯と縄文帯を区分する。

SK-17 (第17・18回)

規模・形状 南北0.7m×東西0.7mの円形 重複関係 SI-01・SI-05を切る。SI-01に伴うと考えられるピットを切る。壁・底面 確認面からの深さは18cm、床面はローム地山。

覆土の状況 自然堆積 遺物 1は、地文にL R縦位の縄文を施し、2条の沈線を施す。2は、胴部片である。地文にR L縦位の縄文を施し、平行沈線で区切られた磨り消し手法による懸垂文を施す。

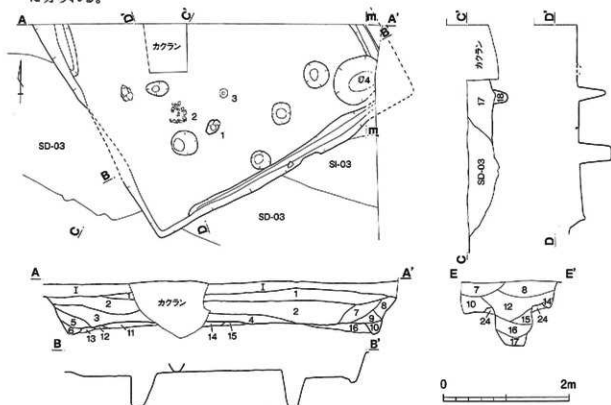
(2) 古墳時代

①竪穴住居跡

SI-02 (第19・20回、第2表)

位置 調査区の北東部に位置する。規模・形状 南北1m×東西4.7mの方形。方位 N-28°-E 床面 ローム地山。壁 確認面から深さ30cm 壁溝有。柱穴 5本 カマド 不明。

遺物 実測可能な遺物は土師器坏1点、壺2点が出土している。備考 SD-03・SK-06に切られる。



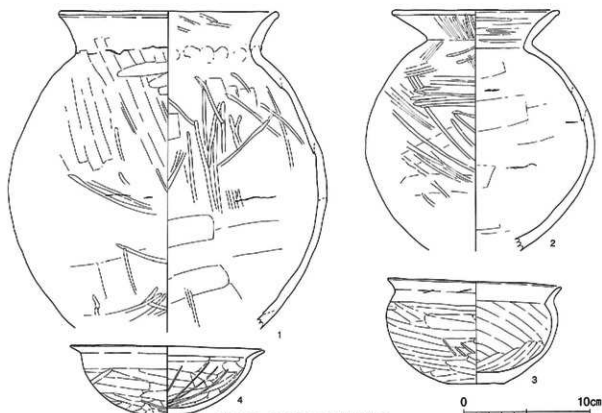
SI-02 (A-A', C-C', E-E')

- | | |
|--------|------------------------------|
| 1 表土 | L 砂少、I P 痕 |
| 2 黄粘土 | L 砂中多、黒L 砂少、I P 痕、S P 痕、C 砂痕 |
| 3 黄粘土 | L 砂中多、黒L 砂少、I P 痕、S P 痕、C 砂痕 |
| 4 黄粘土 | L 砂中多、黒L 砂少、I P 痕 |
| 5 黄粘土 | L 砂少、I P 痕、中中中6か+ |
| 6 黄粘土 | L 砂中多、中中中6か+ |
| 7 黄粘土 | L 砂少、I P 痕 |
| 8 黄粘土 | L 砂中多、黒L 砂少 |
| 9 黄粘土 | L 砂中多 |
| 10 黄粘土 | L 砂中多、黒L 砂痕、中中中6か+ |
| 11 黄粘土 | L 砂中多、C 砂痕 |
| 12 黄粘土 | L 砂中多、黒L 砂少 |
| 13 黄粘土 | L 砂中多、中中中6か+ |

- | | |
|--------|--------------------------|
| 14 黄粘土 | L 砂中多、I P 痕、C 砂痕 |
| 15 黄粘土 | L 砂中多、I P 痕、中中中6か+ |
| 16 黄粘土 | L 砂中多、黒L 砂少、中中中6か+ |
| 17 黄粘土 | L 砂中多、黒L 砂少、C 砂痕 |
| 18 黄粘土 | L 砂中多、中中中6か+ |
| 19 黄粘土 | L 砂中多、L 砂痕、黒L 砂少、I P 痕 |
| 20 黄粘土 | L 砂少 |
| 21 黄粘土 | L 砂中多、黒L 砂痕、黒L 砂少、中中中6か+ |
| 22 黄粘土 | L 砂中多、黒L 砂痕、黒L 砂少、中中中6か+ |
| 23 黄粘土 | L 砂少、I P 痕 |
| 24 黄粘土 | L 砂中多、黒L 砂痕、黒L 砂少 |
| 25 黄粘土 | L 砂中多、中中中6か+ |
| 26 黄粘土 | L 砂中多、黒L 砂痕、黒L 砂少、中中中6か+ |

L-A=91.600m, B-E=91.000m

第19回 SI-02平面図・断面図



第20図 SI-02出土遺物実測図

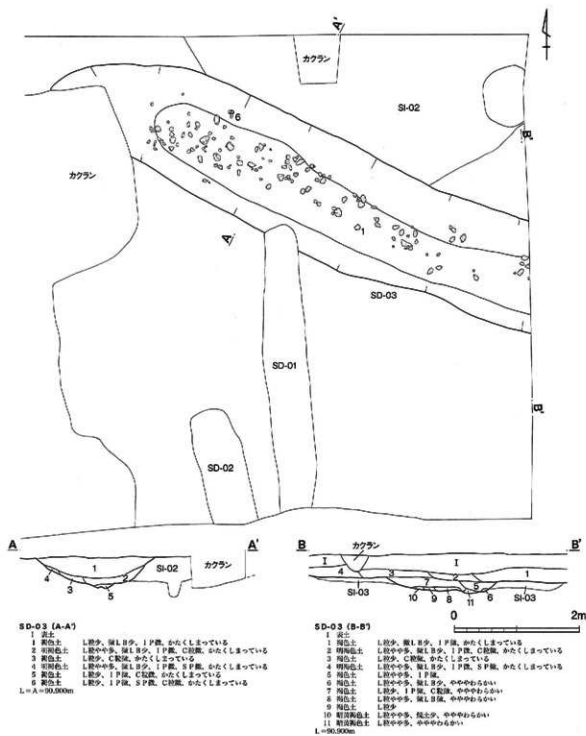
第2表 SI-02遺物観察表

No.	器 種	寸法 (cm)		底径	器形の特徴	取組の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高								
1	土師器 罎	17.0	(25.1)	—	口縁部は外傾し、胴部が球胴を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ、胴部階位のヘラナデ後製いしガキ。	外：褐色 内：灰褐色	砂状	良好	No. 2、4、ビツト出土中	口縁部から胴部
2	土師器 罎	13.0	(19.0)	—	口縁部は外傾し、胴部が球胴を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ後ミガキ、胴部ヘラナデ後製いしガキ、内面ヘラナデ、外面部位上げ。	外：褐色 内：灰褐色	砂状	良好	No. 3、埋土中	口縁部から胴部胴部
3	土師器 鉢	13.8	8.4	4.4	平底で、口縁部は外傾する。	口縁部内外面ヨコナデ、外面ケズリ後ナデ、内面ナデ。	赤褐色	砂状	良好	No. 1	ほぼ完形
4	土師器 片	15.4	6.5	—	丸底、口縁部は外傾する。	口縁部内外面ヨコナデ、外面ケズリ後ナデ、内面ナデ後製製状ミガキ。	褐色	砂状	良好	No. 1、SI-02 埋土中	ほぼ完形

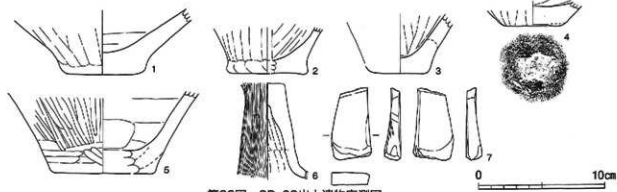
②溝

SD-03 (第21・22図、第3表)

規模・形状 北西方向に延びる溝で、調査区内において8.1mを確認した。幅は、1.6mから1.8mを図る。 **重複関係** SI-01・SI-02・SI-03・SI-05・SK-08を切る。 **壁・底面** 確認面からの深さは26cmから52cmで、断面は曲線的な逆台形状である。 **覆土** 自然堆積 **遺物** 実測可能な遺物は、土師器甕の底部片が5点、土師器高环脚部片が1点、土師器鉢底部片が1点、砥石が1点出土している。



第21図 SD-03平面図・断面図



第22図 SD-03出土遺物実測図

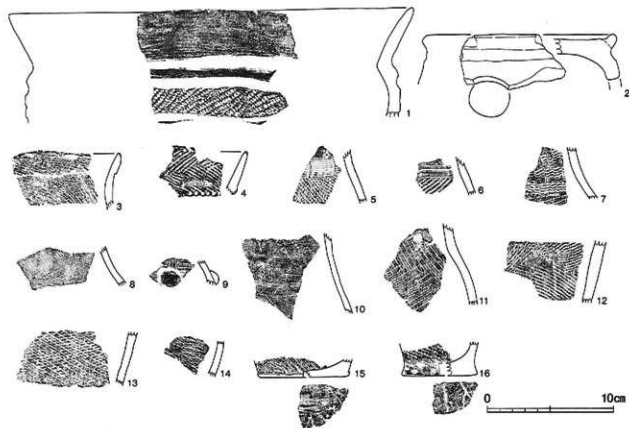
第3表 SD-03遺物観察表

No.	器種	寸法 (cm)			重量 g	器形の特徴	装飾の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口徑	器高	底径								
1	土師器 甕	—	(3.2)	6.0	—	平底。	内外面ナデ。	褐色	砂散	良好	No.1	底部
2	土師器 甕	—	(3.7)	6.0	—	平底。	内外面ナデ。	褐色	砂散	良好	甕土中	底部
3	土師器 甕	—	(4.7)	4.7	—	平底。	外面は比喩による装飾が著しく、底面ナデ。内面はナデ。	淡褐色	砂散、赤色スコリア散	良好	甕土中	底部
4	土師器 甕	—	(1.8)	5.0	—	ドーナツ形。	内外面ナデ。	暗褐色	砂散	良好	甕土中	底部
5	土師器 甕	—	(6.2)	(8.0)	—	平底。	外面は黒いヘラナデ、内面はヘラナデ。	赤褐色	砂散、金雲母	良好	甕土中	底部
6	土師器 鉢片	—	(7.7)	—	—	—	外面はφ1cm7本のハケ目	明褐色	砂散	良好	No.2	胴部
7	土師器 鉢	—	(3.5)	(14.2)	—	底面高台付。	内外面ナデ。底面ケズリ残ナデ。	淡褐色	砂散	良好	甕土中	底部
8	磁石	最大長 (5.7)	最大幅 3.1	最大厚 1.2	27.17	—	—	灰白色	粘板岩	—	甕土中	一帯欠損

(3) 遺構外の出土土器

① 縄文時代・弥生時代 (第23図)

1・2は縄文土器であり、3～16は弥生土器である。1は、口縁部片である。口縁部は沈線によって楕円区画文を施し、区画文内にはRL横位の縄文を施す。2は、器台で、脚部に円形の透かしが設けられる。3・4は、複合口縁部片である。3は、付加条2種の縄文が施される。4は、付加条1種の縄文が施され、段部には、縄文原体による押捺が施される。5～14は、胴部片である。5は、柳描簾状文の下にRL横位の縄文を施す。6は、柳描簾状文の下に付加条1種を施す。7は、3条の柳描波状文の下に縄文を施す。8は、柳描山形文を交差して施し、その下に柳描簾状文を

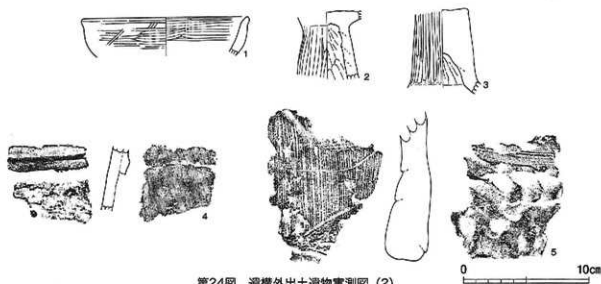


第23図 遺構外出土土器実測図 (1)

施す。9は、縦横位の御描文を施し、円形付文を施す。10は、御描波状文の下に縄文を施す。11は、付加条1種の縄文を施す。12は、羽状の付加条1種の縄文を施す。13は、付加条2種の縄文を施す。14は、付加条1種の縄文を施す。15・16は、底部片である。15は、底部中央にミカキを施し、周辺部に木葉痕を残す。16は、木葉痕を残す。

②その他の時代 (第24図、第4表)

1は、土師器の底部である。底部に直径3cmの孔があく。2は、土師器の坏である。口縁部は外傾し、内外面に横方向の磨きを施す。3・4は、土師器の高坏である。3は、坏と脚の接続部であり、脚部の外面はミカキを施し、外面はナデを施す。4は脚部であり、外面はミカキを施し、外面はナデを施す。5・6は、円筒埴輪片である。5は、埴輪の突起部である。6は、底部である。



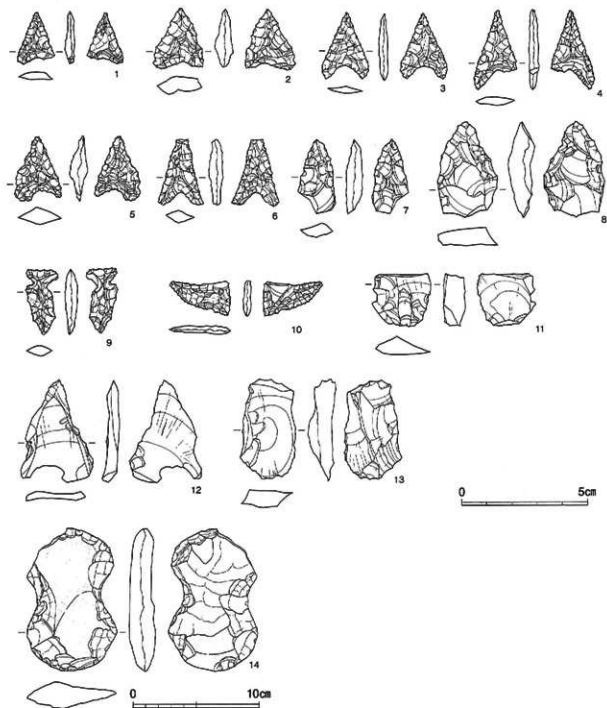
第24図 遺構外出土遺物実測図 (2)

第4表 遺構外出土遺物観察表

No.	器種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	器径							
1	土師器 平	(13.0)	(3.1)	-	口縁部は外傾	外外面ミカキ	赤褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	表層	1/5残
2	土師器 高坏	-	(5.4)	-		外内面ミカキ、内面ナデ	外：黄褐色 内：碧褐色	砂粒	良好	表層	薄柱
3	土師器 高坏	-	(6.7)	-	平野	外内面ミカキ、内面ナデ	黄褐色	砂粒、余炭母	良好	表層	薄柱
4	円筒 埴輪	-	-	-		外内面調整のための調整不明瞭、内面はナデ	灰褐色	砂粒	良好	表層	突起
5	円筒 埴輪	-	-	-		外内面はタテハケ、内面はハケ痕ナデ、突起状あり、φ1cm以下	灰褐色	砂粒	良好	S D-03 地土中	底部

(4) 遺構外の石器

遺構外で出土した石器は14点である。概要は、第25図及び第5表のとおりである。



第25図 遺構外出土石器実測図

第5表 遺構外出土石器観察表

No	種類	形状	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	出土位置	備考
1	石鏃	凹基	2.1	1.3	0.3	0.76	チャート	表層	
2	石鏃	凹基	2.3	1.9	0.6	2.16	チャート	表層	
3	石鏃	凹基	2.6	1.85	0.3	1.07	チャート	S D-0 3	
4	石鏃	凹基	3.2	1.5	0.3	1.2	チャート	表層	一部欠損
5	石鏃	凹基	2.6	1.7	0.7	17.2	玉髓	表層	
6	石鏃	凹基	2.6	1.8	0.5	1.5	チャート	S D-0 3	一部欠損
7	石鏃		2.95	1.5	0.6	2.03	チャート	S D-0 3	一部欠損
8	石鏃		3.7	2.3	0.7	7.89	チャート	表層	
9	石鏃	縦型	2.6	1.2	0.4	1.02	瑪瑙片岩	表層	
10	石鏃	横型	1.2	(2.5)	0.3	0.96	玉髓	表層	一部欠損
11	湖片		2.0	2.3	0.7	4.6	チャート	表層	
12	湖片		4.05	2.9	0.4	2.92	チャート	S D-0 3	
13	湖片		4.0	2.2	0.7	7.36	チャート	S I-0 2	
14	打製石斧	分蘗形	11.3	7.0	2.0	163.25	安山岩	S K-0 3	

3 おわりに

今回の調査は、個人住宅建築に伴う小規模な調査であったため、遺跡の全体は不明であるが、縄文時代中期、弥生時代後期、古墳時代中期ごろの遺跡と考えられる。以下、時代ごとに出土遺物から、遺構の変遷や特徴等を考察し、まとめとする。

縄文時代

B地点（以下「B-」）S I-05の出土土器は、胴部に3条の沈線が垂下するが擦り消しは行われおらず、加曾利E I新型式段階と考えられる。B-S I-04は、加曾利E III型式段階のものほかに、曾利系土器が確認される。B-S I-01は、B-S I-05を切り、B-S I-04に切られることから、竪穴住居跡の変遷は、B-S I-05→B-S I-01→B-S I-04と考えられる。

B-S K-04は、胴部を微隆起線により区画する特徴から、加曾利E IV型式段階、B-S K-09およびB-S K-10は、加曾利E II型式段階と考えられる。

弥生時代

弥生時代の遺構は、土坑が2基確認された。A地点（以下「A-」）S K-08は、複合口縁や飾描き横線文、波状文の頸部片、附加条一種の羽状縄文の胴部片が確認されていることから、弥生時代後期の遺構と考えられる。

古墳時代

古墳時代の遺構は、竪穴住居跡が1軒（B-S I-02）、溝1条（B-S D-03）が確認された。B-S I-02は土器の特徴から5世紀前半から中葉頃と考えられる。両者には重複関係があり、B-S I-02は、B-S D-03に切られており、B-S I-02→B-S D-03となる。B-S D-03からは、5世紀中葉頃と考えられる高坏が出土しているが、B-S I-02からの流入の可能性もある。また、B-S D-03の埋土中から埴輪片が確認されたことは特筆すべき点である（前節では遺構外遺物で掲載）。部分的な調査のため断定できないが本調査で確認されたB-S D-03は古墳に伴う周溝である可能性が考えられる。

近隣の塚山古墳群では5世紀後半の築造とされる塚山古墳をはじめ、多くの古墳で円筒埴輪、朝顔形埴輪が確認されている。塚山古墳群との関係性を含めて、本遺跡から埴輪が出土する意義を考えていく必要がある。さらに、本調査では、上記のとおりB-S D-03に先行する5世紀前半から中葉ごろの竪穴建物跡が確認された。調査の成果は、塚山古墳群の成立前後を考える上で重要な手がかりとなるが、塚山古墳群との前後関係の精査が不可欠であり、今後の課題としたい。

【参考文献】

今平利幸 1996 『塚山古墳群 一道路改良工事に伴う発掘調査一』宇都宮市埋蔵文化財報告書第40集 宇都宮市教育委員会

石部正志ほか2003 『塚山西古墳・塚山南古墳』宇都宮市埋蔵文化財報告書第48集 宇都宮市教育委員会

内山敏行 2013 『東谷・中島地区遺跡群 14 権現山遺跡南部（SG2・SG5・SG9・SG10・SG15区）・磯岡遺跡（SG9区）』栃木県埋蔵文化財調査報告第360集 栃木県教育委員会・財団法人とちぎ未来づくり財団

第Ⅱ章

芋内遺跡

1 はじめに

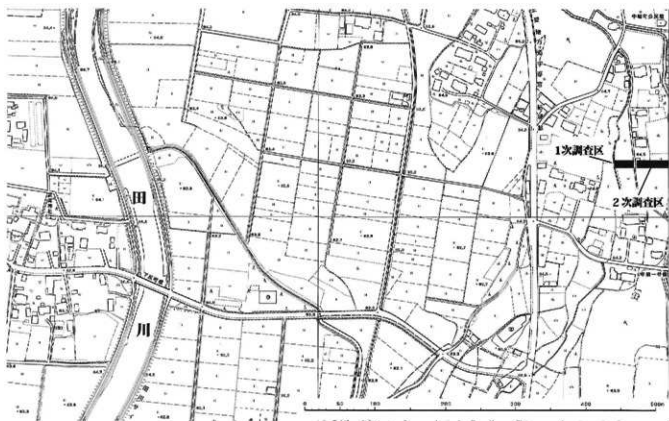
(1) 調査の経過

宇都宮市中島町地内において道路新設工事（市道5580号線）が計画され、平成23年4月18日付け宮道建第127号にて「埋蔵文化財包蔵地発掘の通知について」の届出が提出されたことから、県文化財課に進達した結果、4月25日付け文財第2-38号により確認調査の実施の指示があったため、道路建設の担当課である道路建設課と協議を行い、11月21日から確認調査を実施することとなった（第1次調査）。

11月21日から調査対象地区内に、長さ約20m、幅約2mのトレンチを2本設定し、現地表面から60cm掘り下げた面で遺構の確認を行ったところ、川跡及び溝跡が確認されたため、平面図等の記録保存を行い、翌22日に埋戻しを行った。調査区西側には、現在も川が流れていることから、古い時期の流路の一部と考えられる。

平成24年4月6日に、前年度確認調査を実施した箇所のすぐ東側部分に対して、宮道建第44号にて「埋蔵文化財包蔵地発掘の通知について」の届出が提出され、県文化財課に進達した結果、4月17日付け文財第8-27号により発掘調査の実施の指示があったため、道路建設の担当課である道路建設課と協議を行い、7月18日から発掘調査を実施することとなった（第2次調査）。

まず初めに重機により表土剥ぎを行い、竪穴住居跡が6軒確認され、遺構の掘り下げを行った。調査は8月31日まで行い、終了後に埋戻しを行った。



第26図 調査区位置図

(2) 遺跡の環境

芋内遺跡の所在する宇都宮市は、栃木県の中央部に位置し、関東平野の最奥部にあたる。本遺跡は、宇都宮市の中心から南南東方へ約7kmに所在し、西側約100mには宇都宮市と上三川町の中心地を結ぶ上三川街道がとっている。

遺跡の周辺は、主に田畑として利用されているが、近年、東側約500mで、東谷・中島土地区画整理事業により大規模な開発が行われ、現在は住宅・商業地区に変貌している。

本遺跡は、田川の東方約700mに位置し、田川低地内を南北に流れる赤沢川・武名瀬川などの小河川に挟まれた微高地上に立地する。

第27図は芋内遺跡周辺の遺跡をプロットしたものである。

旧石器時代 本遺跡の東方約1.5kmの西刑部西原遺跡(15)ではローム層中から尖頭器、剥片など500点余りが出土している。また、隣接の立野遺跡(14)では円形掻器や剥片、その南側に位置する磯岡北遺跡(23)では水晶製尖頭器が出土している。

縄文時代 本遺跡の北東方約1kmの砂田遺跡(2)では早期と推定される落し穴が数基確認されている。中期は、遺跡の北東方約3.5kmの根本遺跡で竪穴住居跡10軒と土坑が確認され、立野遺跡、杉村遺跡(25)で土坑、磯岡遺跡(27)、中島笹塚遺跡(6)、杉村遺跡で竪穴住居跡が1軒確認されている。後期は、立野遺跡で土坑が確認されている程度である。晩期は、南西約3kmの西下谷田遺跡で土坑が12基確認されている。

弥生時代 前期は今のところ確認されていない。中期は、本遺跡の南東方約1kmの杉村遺跡(25)で竪穴住居跡1軒と土坑2基、隣接する磯岡遺跡で土坑2基、弘沼遺跡(40)で土坑2基が確認され、概ね中期後半段階のものと考えられている。後期は、本遺跡の北北西方約4kmの本村遺跡で二軒屋式期の竪穴住居跡、西方約3kmの天狗原遺跡では二軒屋式の土器片が、北東方約2kmの瑞穂野岡地遺跡では二軒屋式期の竪穴住居跡が2軒確認されている。

古墳時代 田川以西の神主台地上には、前期の前方後方墳が3基からなる茂原古墳群が所在する。これらの古墳は大日塚古墳—愛宕塚古墳—権現山古墳の順で築造されたと考えられている。一方田川以東では、本遺跡から東方約2.5kmの西刑部古屋原遺跡(19)で小規模な方墳が2基確認されている。この時期の集落跡は、砂田東遺跡(4)でS字状口縁甕を伴う竪穴住居跡が1軒、中島笹塚遺跡で竪穴住居跡が1軒と小規模な集落が点在する。

中期になると、本遺跡の南方約2kmに全長約105mの前方後円墳である笹塚古墳(34)を中心とする東谷古墳群が所在する。また、西北西方約3.5kmに全長98mの前方後円墳である塚山古墳を中心とする塚山古墳群が所在する。両古墳群はほぼ並行する時期に古墳群が形成されるが、東谷古墳群内の双子塚古墳(35)と笹塚古墳がやや先行すると考えられている。東方約1.5kmの磯岡北遺跡では中期後葉の円墳9基、土坑墓5基、竪穴式小石室1基、埴輪棺1基が確認されている。この時期に権現山遺跡(24)に豪族居館が形成され、その周辺に杉村遺跡や磯岡北遺跡などの同時期の竪穴住居跡が展開し、拠点的な集落が形成される。

後期になると、本遺跡の東方約2kmに全長52mの琴平塚古墳を中心とする琴平塚古墳群(16)が所在する。集落の中心は、前時期の集落跡より北に位置する立野遺跡に移ると考えられる。この遺跡からは5世紀末～6世紀初頭にかけての一辺が約15mの県下最大級の規模の竪穴住居跡が見つかっており、「豪族居館」との関連が指摘されている(水野ほか2005)。また、遺跡内からは約90軒の古墳時代の竪穴住居跡が確認されている。

奈良・平安時代 本道跡の北東方1.5kmに位置する砂田遺跡は、古墳時代中期に集落が始まるが、南に位置する権現山遺跡や立野遺跡が集落の終焉を迎える中、奈良時代になると九十九瀬川の両岸に掘立柱建物跡や竪穴住居跡が多数確認され、集落の発展が見られる。しかし、平安時代になると集落は縮小し、10世紀を迎える前に終息する。

権現山遺跡・杉村遺跡・磯岡北遺跡・杉村北遺跡・西荆部西原遺跡にかけて確認された道路状遺構は、古代の東山道跡と推定されている。

No	遺跡名	所在地	備考
1	宇内遺跡	宇都宮市中島町	奈良・平安時代の集落跡
2	砂田遺跡	宇都宮市砂田町	縄文時代早期の散布地、古墳時代中・後期の集落跡
3	砂田畑遺跡	宇都宮市砂田町竈	
4	砂田東遺跡	宇都宮市砂田町	古墳時代前期～後期・奈良時代の集落跡
5	砂田姥遺跡	宇都宮市砂田町姥沼	古墳時代中期～奈良・平安時代の集落跡
6	中島塚遺跡	宇都宮市砂田町字笹塚ほか	古墳～平安時代の集落跡
7	上横田A遺跡	宇都宮市下桑島町西原	奈良・平安時代の集落跡
8	大岡台遺跡	宇都宮市西荆部町	奈良・平安時代の集落跡
9	小屋原遺跡	宇都宮市西荆部町小屋原	奈良・平安時代の集落跡
10	藤原遺跡	宇都宮市西荆部町	古墳～平安時代の集落跡
11	成願寺遺跡	宇都宮市西荆部町	古墳時代中・後期の古墳群・集落跡
12	中道遺跡	宇都宮市西荆部町中道	奈良・平安時代の集落跡
13	後尚塚遺跡	宇都宮市西荆部町後尚塚	奈良・平安時代の集落跡
14	立野遺跡	宇都宮市東谷町立野ほか	旧石器時代の散布地、縄文時代早期～後期の散布地、弥生時代の土坑
15	西荆部西原遺跡	宇都宮市平塚町西原ほか	古墳時代～平安時代の集落跡
16	尋平塚古墳群	宇都宮市平塚町西原ほか	古墳時代中・後期の古墳群
17	西沼遺跡	宇都宮市平塚町西沼ほか	奈良・平安時代の集落跡
18	不動堂遺跡	宇都宮市西荆部町不動堂	奈良・平安時代の集落跡
19	西荆部古屋原遺跡	宇都宮市西荆部町古屋原	古墳時代の古墳群
20	下小屋原遺跡	宇都宮市平塚町下小屋原	奈良・平安時代の集落跡
21	平塚原根岸遺跡	宇都宮市平塚町	古墳時代～平安時代の集落跡
22	南浦遺跡	宇都宮市平塚町南浦	縄文・奈良時代の集落跡
23	磯岡北遺跡	上三川町磯岡	
24	権現山遺跡	宇都宮市東谷町権現山	古墳時代中期の居館跡・集落跡
25	杉村遺跡	宇都宮市東谷町杉村	
26	原遺跡	宇都宮市東谷町	古墳時代～平安時代の集落跡
27	磯岡遺跡	上三川町磯岡	
28	原古墳群	宇都宮市東谷町	古墳時代の円墳2基
29	塚塚古墳群	宇都宮市東谷町	古墳時代の円墳5基
30	上石田遺跡	上三川町石田	古墳～平安時代の集落跡
31	権現塚古墳群	宇都宮市東谷町	古墳時代の円墳2基
32	松の塚古墳	宇都宮市東谷町	古墳時代中期の円墳（直径約50m）
33	鶴舞塚古墳	宇都宮市東谷町	古墳時代中期の円墳（直径43m）
34	笹塚古墳	宇都宮市東谷町	古墳時代中期の前方後円墳（全長約105m）
35	灰子塚古墳	宇都宮市東谷町	古墳時代中期の前方後円墳
36	西赤瀬東遺跡	上三川町西汗	古墳～平安時代の集落跡
37	西赤瀬西遺跡	上三川町西汗	古墳時代後期の古墳（全長26m）
38	西赤瀬南遺跡	上三川町西汗	奈良・平安時代の集落跡
39	西林ノ内遺跡	上三川町西藤沼	縄文・古墳～平安の集落跡
40	仏沼遺跡	上三川町西藤沼	旧石器時代の散布地、縄文時代草創期・早期・後期の散布地
41	上郷古墳群	上三川町上郷	古墳時代前期～後期の古墳群

第6表 周辺遺跡一覧表

2. 調査概要

古墳時代後期～平安にかけての竪穴住居跡6軒が確認された(第27図)。調査区全体にゴボウのトレンチャーが入り、遺構の保存状態はあまり良くなかった。以下、それぞれの遺構について記す。

(1) 竪穴住居跡

S I-01 (第29・35図)

位置 調査区北東に位置する。**平面形** 南北3.2m×東西4.2mの東西方向に長い方形。**方位** N-96°-E **床面** ローム地山。**壁** 確認面から深さ約20cmと浅い。**壁溝** 無。**柱穴** 確認できなかった。**カマド** 東カマド。**遺物** 実測可能な遺物は土師器環1点、甕2点、須恵器環2点のほか、鉄滓が1点出土している。**備考** ゴボウのトレンチャー及び芋穴等に部分的に攪乱を受けている。

S I-02 (第30・36図)

位置 調査区のほぼ中央に位置する。**平面形** 南北4.3m×東西4.8mの方形。**方位** N-7°-W **床面** ローム地山。**壁** 確認面から深さ35cm **壁溝** 無。**柱穴** 2本 **カマド** 北カマド **遺物** 実測可能な遺物は土師器環1点、甕1点、須恵器環3点、高台付環1点、壺1点、甕1点が出土している。**備考** S I-03を切る。ゴボウのトレンチャーにより攪乱を受けている。

S I-03 (第31・37図)

位置 S I-01の南側に隣接する。**平面形** 南北4.9m×東西5.0mの方形。**方位** N-6°-W **床面** ローム地山。**壁** 確認面から深さ40cm **壁溝** 無。**柱穴** 2本? **カマド** 北カマド **遺物** 実測可能な遺物は土師器環2点、甕3点、鉢もしくは甕1点、須恵器壺2点のほか、棒状の鉄製品1点が出土している。**備考** カマド部分がゴボウのトレンチャー及び芋穴等により大きく攪乱を受けている。また、S I-02に切られる。

S I-04 (第32・38図)

位置 調査区中央南寄りに位置する。**平面形** 南北 — m×東西4.0mの方形。南側は調査区外となり、南北方向の規模は不明。**方位** N-100°-E **床面** ローム地山。**壁** 確認面から深さ15cmと浅い。**壁溝** 無。**柱穴** 無。床面中央南寄りに、長軸約90cmの楕円形の土坑が1基あり。**カマド** 東カマド **遺物** 実測可能な遺物は土師器環1点、甕3点、碗2点出土している。

S I-05 (第33・39図)

位置 調査区西側に位置する。**平面形** 南北3.8m×東西3.6mの方形。**方位** N-4°-W **床面** ローム地山。**壁** 確認面から深さ20～30cm **壁溝** 無。**柱穴** 無。**カマド** 北カマド **遺物** 実測可能な遺物は須恵器環1点、土師器環2点、甕1点が出土している。**備考** ゴボウのトレンチャー及び芋穴などによりカマド部分を中心に大きく攪乱を受けている。

S I-06 (第34・40図)

位置 S I-05に隣接し、調査区南西に位置する。**平面形** 南北 — m×東西4.7mの方形。

南側は調査区外となり、南北方向の規模は不明。方位 N-4°-W 床面 ローム地山。壁 確認面から深さは20～30cm。壁溝 無。柱穴 2本? カマド 北カマド 遺物 実測可能な遺物は土師器坏5点、甕3点のほか、紡錘車が1点出土している。備考 ゴボウのトレンチャー及び芋穴などにより大きく攪乱を受けている。

(2) 遺構外出土遺物 (第41図)

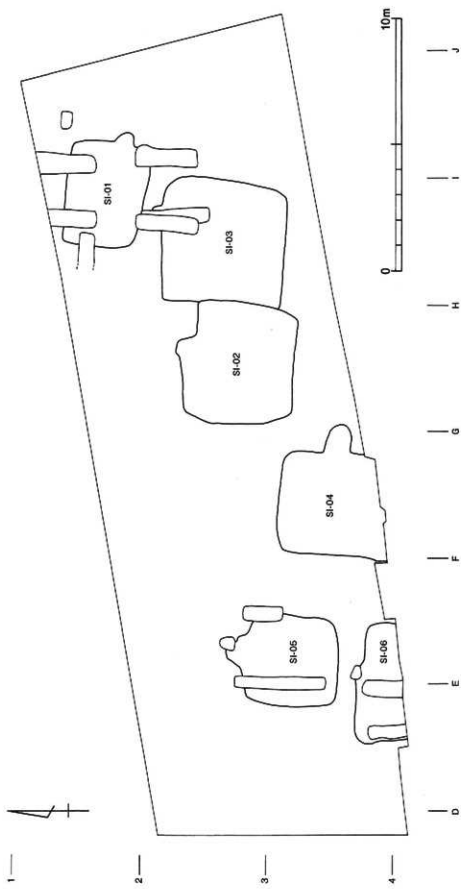
1・2は縄文土器片である。地文は縄文で、沈線を施す。色調は暗褐色。胎土に砂粒を含む。焼成は良好。

3は須恵器甕の胴部片である。胴部外面が格子叩き、内面に同心円の当て具痕が残る。色調は灰色。胎土に砂粒、白色粒を含む。焼成は良好。

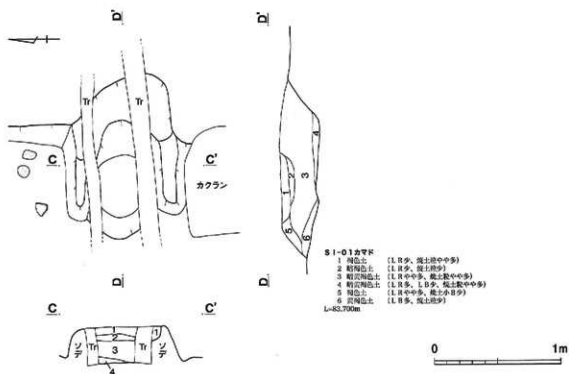
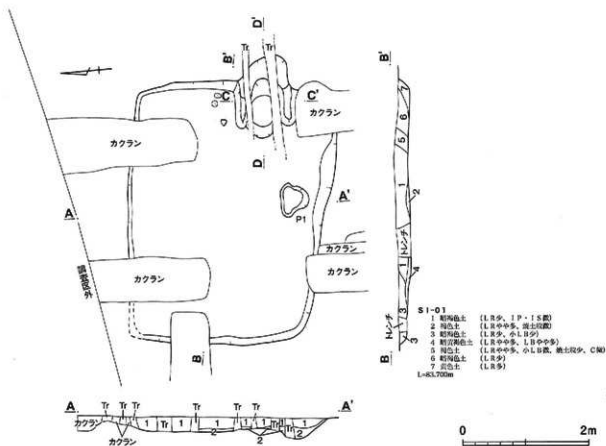
4は須恵器坏の底部片である。推定底径6.4cm。ロクロ成形で底部切り離しは回転糸切り。色調は灰オリーブ色。胎土に砂粒、白色粒を含む。焼成は良好。

5は須恵器壺の底部片である。推定底径14cm、残存高3.4cm。ロクロ成形。色調は灰白色。胎土に砂粒、白色粒を含む。焼成はあまり良くない。

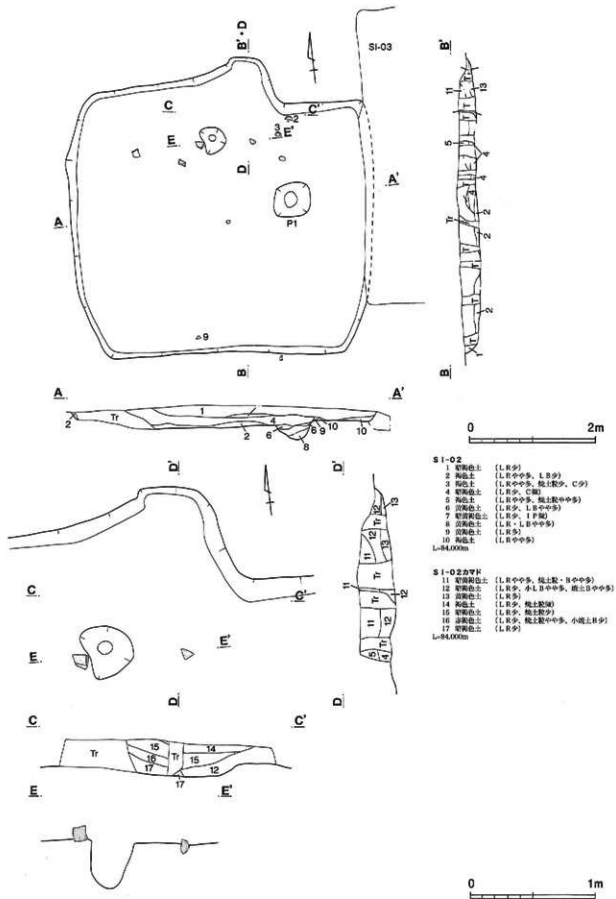
6は、調査区北側に居住している前土地所有者が本遺跡内の開鑿の際に発見したものである。ほぼ完形の長頸壺である。推定口径8.8cm、器高28.9cm、底径13.0cm。折返し口縁で、胴部は胴部上半に最大径をもつが、ナデ肩でほぼ球形を呈する。底部には高台を付す。尚、底部は焼成後に人為的に穿孔されている。色調は灰色。胎土に砂粒、白色粒を含む。焼成は良好。



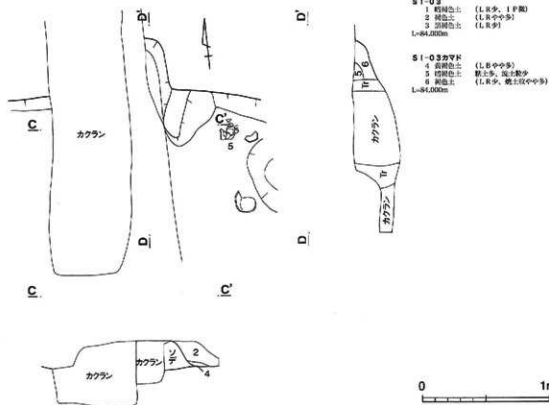
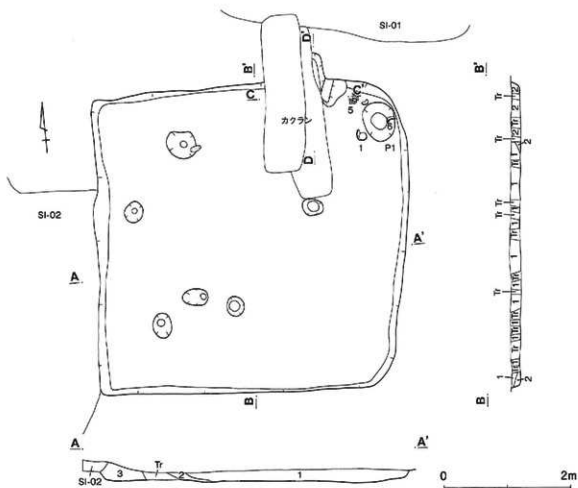
第28図 調査区全体図 (1/150)



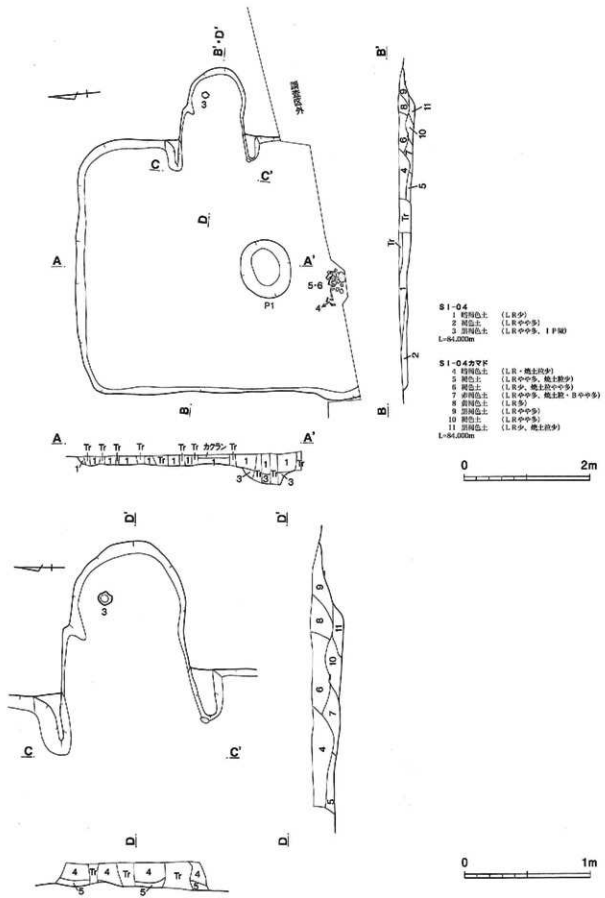
第29図 SI-01/SI-01カマド



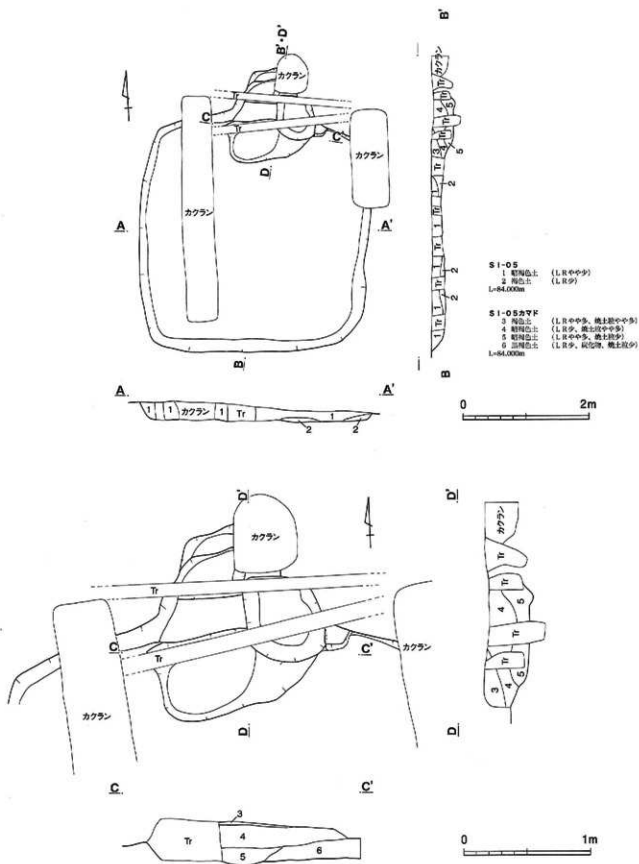
第30図 SI-02/SI-02カマド



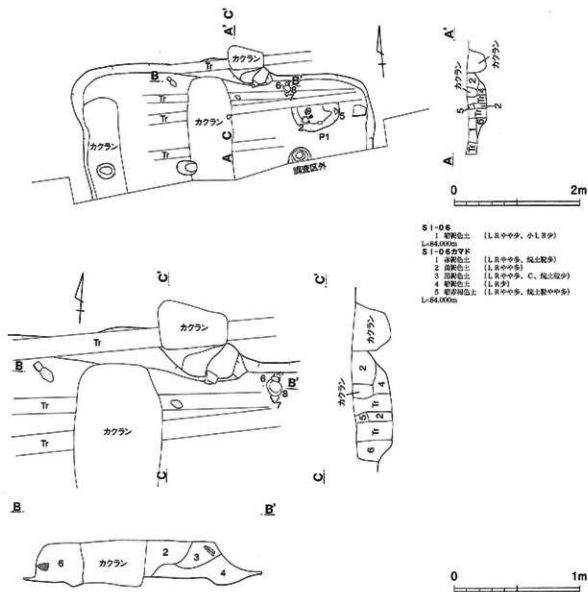
第31圖 SI-03/SI-03カマド



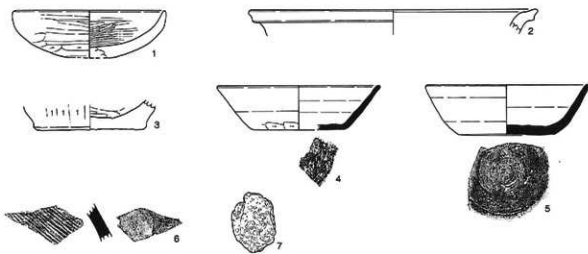
第32図 SI-04/SI-04カマド



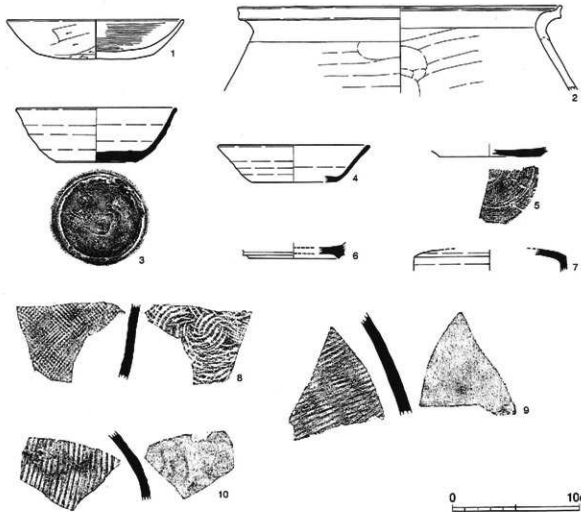
第33図 SI-05/SI-05カマド



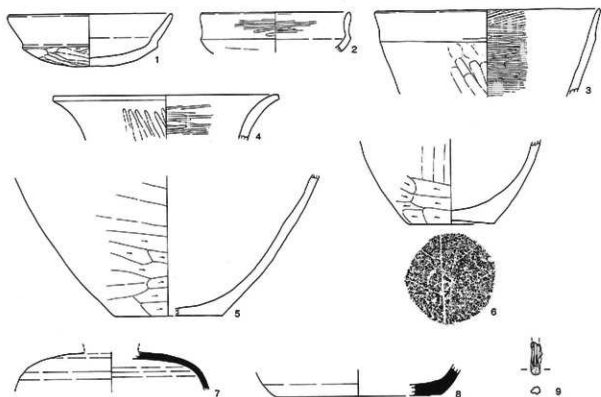
第34図 SI-06/SI-06カマド



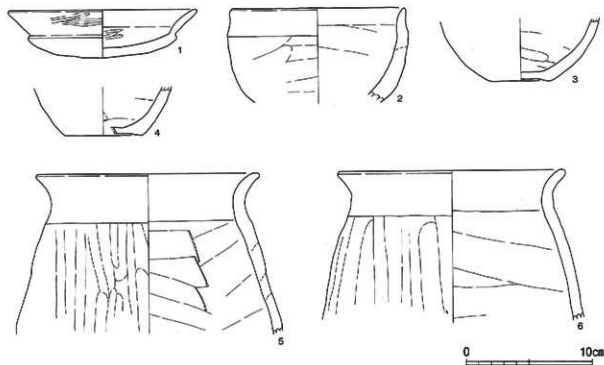
第35图 SI-01出土遺物実測図



第36图 SI-02出土遺物実測図



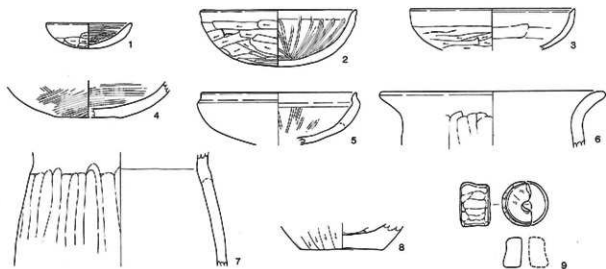
第37图 SI-03出土遺物実測図



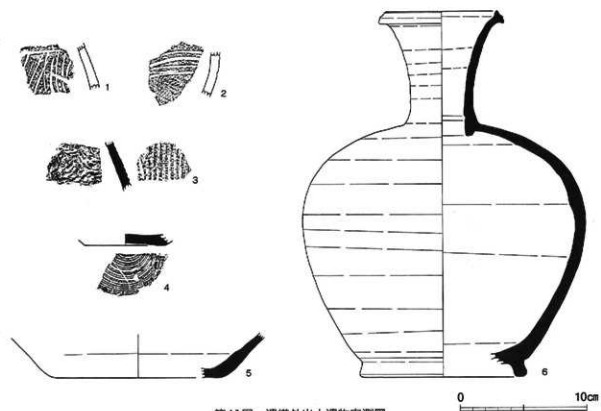
第38图 SI-04出土遺物実測図



第39图 SI-05出土遺物実測図



第40图 SI-06出土遺物実測図



第41图 遺構外出土遺物実測図

第7表 SI-01遺物観察表

No.	器 種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口徑	器高	底径							
1	土師器 平	(12.0)	3.8	—	丸底で半球状を呈する。	口縁部コナダ、体部外面へラケズリ後へラケナダ、内面へラミダギ。	赤褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	S1-01 波瀬	1/4段
2	土師器 蓋	(23.0)	—	—	口唇部を積み上げ、外面に凹面を形成し直立する。	口縁部コナダ。	暗褐色	砂粒、白色粒	良好	ベルト内	口縁部破片
3	土師器 平	—	—	(9.0)	平底。	外面ケズリ、内面へラケナダ。	淡褐色	砂粒、石灰	良好	B区埋土中	底部1/2段
4	須恵器 平	(13.0)	—	—	平底で、体部が外傾する。	ロクロ成形、体部下縁へ底部手付ちへラケナダ。	灰色	砂粒、雲母	良好	B区埋土中	1/4段
5	須恵器 平	(13.0)	4.1	7.4	平底で、体部が外傾する。	ロクロ成形、底部回転糸切り後、裏面を回転へラケズリ。	灰オリーブ	砂粒、白色粒多	良好	No.1	1/3段
6	須恵器 蓋	—	—	—	—	外面平行手。内面無文あて具軌。自然釉がゆる。	灰オリーブ	砂粒	良好	C区埋土中	胴部破片
7	鉄片	最大長 (cm) 4.8	最大幅 (cm) 3.4	重量 (g) 19.45	—	—	—	—	—	—	A区埋土中

第8表 SI-02遺物観察表

No.	器 種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口徑	器高	底径							
1	土師器 平	(14.0)	3.2	(9.2)	丸みを帯びた平底。	外面へラケズリ、内面縦方向の密なへラミダギ。	暗赤褐色	砂粒	良好	B区・C区埋土中	1/4段
2	土師器 蓋	(25.8)	—	—	口唇部を積み上げ、外面に凹面を形成し直立する。短縮痕。	口縁部コナダ、内外面ナダ。	褐色	砂粒、石灰	良好	No.3、AK埋土中	口縁部1/4段
3	須恵器 平	(12.7)	4.3	6.2	平底で体部が外傾する。	ロクロ成形、底部回転糸切り。	灰色	砂粒	良好	No.2	1/3段
4	須恵器 平	(12.0)	2.9	(6.5)	平底で、体部が外傾する。	ロクロ成形、底部回転糸切りや、口唇部を積み上げない。	灰色	砂粒	良好	C区埋土中	1/5段
4	須恵器 平	—	—	(8.0)	—	ロクロ成形、裏面回転糸切り後へラケズリ。	灰褐色	砂粒	不良	C区埋土中	1/4段
4	須恵器 高台付	—	—	(7.0)	高台付。	ロクロ成形、裏面回転糸切り後高台付り付。	灰色	砂粒	良好	B区・C区埋土中	底部1/6段
7	須恵器 蓋	—	—	—	口部に線を有する。自然釉がゆる。	ロクロ成形。	灰色	砂粒	良好	C区埋土中	胴部破片
8	須恵器 蓋	—	—	—	—	外面格子手。内面同心円のあて具。	灰オリーブ	砂粒	良好	C区埋土中	胴部破片
9	須恵器 蓋	—	—	—	—	外面平行手。内面あて具軌をナダ削す。	外：暗赤褐色 内：灰オリーブ	砂粒	やや不良	No.6	胴部破片
10	須恵器 蓋	—	—	—	—	外面平行手。内面あて具軌をナダ削す。	灰褐色	砂粒	不良	C区埋土中	胴部破片

第9表 SI-03遺物観察表

No.	器 種	寸法 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口徑	器高	底径							
1	土師器 平	13.0	4.2	—	丸底で、口縁部外面に線を有する。	口縁部コナダ、体部外面ケズリ後ナダ、内面調整不明瞭。	乳白色	砂粒	良好	No.5	2/3段
2	土師器 平	(12.0)	(3.2)	—	口縁部は直立し、体部外面に線を有する。	口縁部コナダ後、若いへラミダギ、体部ナダ。	赤褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	B区埋土中	1/4段
3	土師器 鉢形	(18.0)	(7.0)	—	口縁部が大きく外傾し、胴部に割らざるにすまざる。	口縁部コナダ、体部外面横方向へラケナダ、内面横方向へラミダギ。	赤褐色	砂粒、赤色スコリア粒	良好	B区埋土中	口縁部1/8段
4	土師器 平	(18.0)	—	—	口縁部は外傾する。	口縁部外面ワシ上げ、コナダ後縦方向へラミダギ、口縁部内面コナダ後横方向へラミダギ。	暗褐色	砂粒	良好	ベルト内	口縁部1/8段
5	土師器 平	—	(11.0)	(8.6)	平底。	体部外面横方向へラケズリ、外：赤褐色内：淡褐色不明瞭、底部へラケズリ。	赤褐色内：淡褐色	砂粒	良好	No.2	底部1/5段
6	土師器 平	—	(6.7)	7.0	平底。	体部外面上縁ナダ、下部縦方向へラケズリ。内面調整不明瞭、底面本面。	外：明褐色内：淡褐色	砂粒	良好	No.1	底へ側1/4
7	須恵器 蓋	—	—	—	—	ロクロ成形、外面自然釉。	外：灰白色内：灰色	砂粒	良好	A区埋土中	胴部1/6段
8	須恵器 蓋	—	—	(13.0)	平底。	ロクロ成形、底部回転糸切り。	灰オリーブ	砂粒	良好	表層	1/6段
9	銅製片 不明	最大長 (cm) (2.7)	最大幅 (cm) 0.7	重量 (g) 1.45	—	—	—	—	—	—	C区埋土中

第10表 SI-04遺物観察表

No.	部 類	寸法 (m)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 環	(15.0)	3.8	—	丸底で、口縁部外側に稜を有する。	口縁部コナダ、内外面口縁へ 体部内面ヘラミガキ。体部外 面は調整不明。	赤褐色～暗赤褐色	砂粒	良好	No.1、カマ ド一基	2/3残
2	土師器 鉢	(14.0)	(7.5)	—	口縁部は直立し、底部外面に稜 を有する。体部は緩やかに丸 みを帯びる。	口縁部コナダ、体部内外面ヘ ラナダ。	暗赤褐色	砂粒、赤色 スコーリア粒	良好	P-1、カマ ド、D区埋 土中	1/3残
3	土師器 壺	—	(4.9)	4.5	ややくぼみ底。体部は緩やかに 丸みを帯びる。	体部外側調整不明、内面ナダ、 外側調整不明。	赤褐色	砂粒	良好	No.1、カマ ド一基	底部へ体下 半残
4	土師器 壺	—	—	(6.0)	平底。	体部外面調整不明、内面ヘラ ナダ。	外：灰色 内：黄褐色	砂粒	良好	No.1、2	底部1/2残
5	土師器 壺	(17.6)	(12.0)	—	口縁部は外傾し、底部外面下部 に稜を有する。	口縁部コナダ、体部外面縦方 向ヘラナダ、内面縦方向ヘラナ ダ。	黄褐色～暗褐色	砂粒	良好	No.2、3	1/3残
6	土師器 壺	(18.0)	(12.0)	—	口縁部は外傾する。	口縁部コナダ、外面縦方向ヘ ラナダ、内面縦方向ヘラナダ。	黄褐色	砂粒	良好	No.1、2、3	1/3残

第11表 SI-05遺物観察表

No.	部 類	寸法 (m)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 環	(13.0)	(3.3)	—	口縁部は短く直立する。	体部外面縦方向ヘラミガキ、内 面縦方向ヘラミガキ。赤色を施 す。	明赤褐色	砂粒	良好	カマド	1/5残
2	土師器 環	(12.0)	(3.0)	—	口縁部は直立し、体部外面に稜 を有する。	口縁部コナダ表裏方向ヘラミ ガキ。体部内面ヘラミガキ、 内面縦方向ヘラミガキ。	赤褐色	砂粒	良好	埋土中	1/4残
3	土師器 壺	—	(5.2)	(7.0)	平底で、体部が外形する。	体部縦方向ヘラナダ、内面縦方 向ヘラナダ。底部木炭焼。	灰色	砂粒、雲母	良好	カマド	底部1/4残
4	土師器 環	—	(1.8)	(0.9)	平底で、体部が外形する。	ロクロ成形。底部は短軸ヘラケ ズリ後ナダか?	灰色	砂粒	良好	D区埋土中	1/5残

第12表 SI-06遺物観察表

No.	部 類	寸法 (m)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 環	(6.8)	2.0	—	丸底で、口縁部は外傾する。	口縁部コナダ、体部外面ヘラケ ズリ、内面ケラミガキ。口縁 部外面へ内面ウレシ仕上げ。	暗褐色	砂粒	良好	表層	1/4残
2	土師器 環	12.4	4.5	—	口縁部は外傾し、体部外面に稜 を有する。丸底。	口縁部コナダ、体部外面縦方 向ヘラケズリ、内面調整後ヘラ ミガキ。口縁部ウレシ仕上げ。	にぶい黄褐色	砂粒	良好	No.3	完形
3	土師器 環	(13.2)	(3.3)	—	口縁部は短く直立する。	口縁部コナダ、体部外面縦方 向ヘラケズリ、内面縦方向ヘラ ナダ。磨製あり。	にぶい黄褐色	砂粒	良好	No.6	1/4残
4	土師器 環	—	(2.9)	(5.0)	平底。	体部内外面密なヘラミガキ。	明赤褐色	砂粒	良好	笠蓋部	底部1/4残
5	土師器 環	(12.8)	(2.5)	—	口縁部は短く直立する。	口縁部コナダ、体部外面調整 不明、内面調整後ヘラミガキ。	にぶい黄	砂粒	良好	No.2	1/4残
6	土師器 壺	(18.0)	(4.2)	—	口縁部は外傾する。	口縁部コナダ、体部外面縦方 向ヘラナダ。内面調整不明。	外：にぶい黄 内：黄	砂粒	良好	No.6	1/8残
7	土師器 壺	—	(9.0)	—	長胴型。	口縁部コナダ、体部外面縦方 向ヘラナダ。内面調整不明。	灰色	砂粒	良好	No.5	1/4残
8	土師器 壺	—	(2.0)	6.5	平底。	体部外面縦方向ヘラケズリ、内 面ヘラナダ。	暗褐色	砂粒	良好	No.5	底部のみ残
9	土製 紡車 石	径 上2.9 下3.6	孔径 13.6 70.0	厚 2.4			黄褐色	砂粒	良好	B区埋土中	1/2残

第13表 遺構外遺物観察表

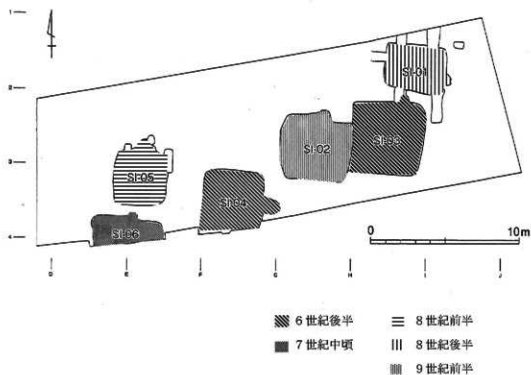
No.	部 類	寸法 (m)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
		口径	器高	底径							
3	須志器 壺	—	—	—		胴部外面磨き。内面同心円 のあて具。	灰色	砂粒	良好	表層	破片
4	須志器 環	—	—	(6.4)	平底。	厚板赤切り。	灰オリーブ	砂粒、白色 粒	良好	表層	底部1/6残
5	須志器 壺	—	3.4	(14.0)	平底。	ロクロ成形。	灰白色	砂粒	不良	表層	底部1/6残
6	須志器 長胴壺	(8.8)	28.9	13.0	折り返し口縁、球脚で、底部は 高台付。蓋部は人為的に孔があ けられている。	ロクロ成形。自然釉がゆるる。	灰色	砂粒、白色 粒	良好	表層	ほぼ完形

3 おわりに

今回の調査は、道路部分のみの調査であるため、遺跡の全体像はわからないが、古墳時代後期～平安時代初期にかけての遺跡と考えられる。遺跡の両側には、小河川が南流し、竪穴住居跡を形成した範囲は、この両河川に挟まれた幅200m前後の狭隘な微高地上に限られる。竪穴住居跡の規模は一辺が4～5mで、北側にカマドを配置するもの（S I-02・S I-03・S I-05・S I-06）と東側にカマドを配置するもの（S I-01・S I-04）に分かれる。切り合い関係はS I-02とS I-03のみであるが、S I-01とS I-03、S I-05とS I-06は隣接しており、同時期に存在した可能性は低い。

遺物は、須恵器環を伴うグループ（S I-01・S I-02・S I-05）と伴わないグループ（S I-03・S I-04・S I-06）がある。前者は須恵器環の法量比や底部調整技法などから、S I-05→S I-01→S I-02の順が考えられる。後者はS I-03の1とS I-04の1の土師器環が丸底で口縁部が外反するタイプと同じであることから、ほぼ同時期と考えられ、大関台遺跡ではこのタイプの土師器環を6世紀後半段階に位置付けている。S I-06では1のような小形の土師器環が見られることから、7世紀中頃に位置付くと考えられる。

上記のことから、第42図のような遺構変遷が考えられ、古墳時代後期～平安時代にかけての小規模な集落の一端を垣間見ることができる。



第42図 遺構変遷図

写 真 图 版



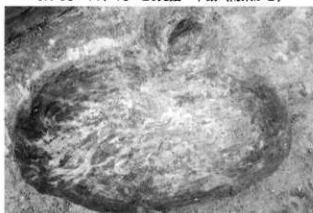
SK-01~04完掘状況 (南東から)



SK-08~11、13~20完掘・半截 (南東から)



SK-01セクション (北から)



SK-01完掘状況 (南から)



SK-02・03・21セクション (南から)



SK-02・03・21完掘状況 (東から)



SK-04セクション (南から)



SK-04完掘状況 (南から)

PL2 二軒屋遺跡 A地点



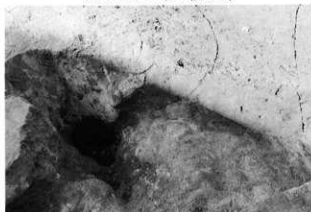
SK-05・06・07セクション (北から)



SK-08セクション (南から)



SK-08・19完掘状況 (南から)



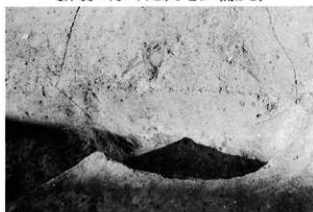
SK-09・10・11セクション (南から)



SK-09・10・11セクション (南から)



SK-09・18セクション (東から)



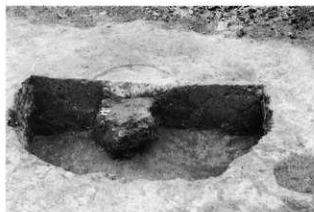
SK-11セクション (南から)



SK-12セクション (南から)



SK-12完掘状況 (西から)



SK-13セクション (南から)



SK-13廃土と遺物出土状況 (南から)



SK-14・20号セクション (南西から)



SK-15・16セクション (東から)



SK-15セクション (東から)



SK-16セクション (南東から)



SK-17完掘状況 (東から)

PL4 二軒屋遺跡 B地点



SK-01・02 (南から)



SI-02完掘 (南西から)



SI-02完掘 (北東から)



SI-02完掘 (北西から)



SI-02北壁面セクション (南から)



SI-02遺物出土状況 (北から)



SI-02・SD-03セクション (南東から)



SD-03遺物出土状況 (北西から)



SD-03遺物出土状況 (南東から)



SD-03完掘 (南東から)



SD-03完掘 (北西から)



SK-06遺物出土状況 (北から)



SK-06遺物出土状況 (北から)



SK-06完掘・セクション (西から)



SI-01遺物出土状況 (南から)



SI-01遺物出土状況 (北から)

PL6 二軒屋遺跡 B地点



SI-01完掘 (南から)



SI-01 炉跡完掘 (西から)



SI-03完掘 (西から)



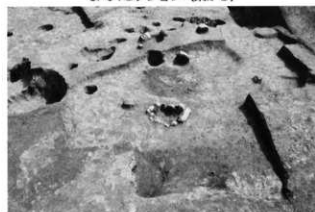
SI-03東壁面セクション (西から)



SI-04セクション (東から)



SI-04 炉跡付近セクション (東から)



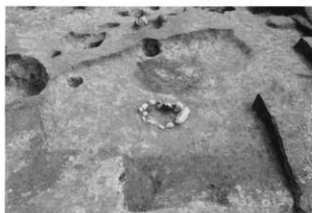
SI-04遺物出土状況 (西から)



SI-04完掘 (南東から)



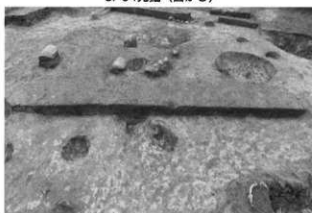
SI-04完掘 (北から)



SI-04完掘 (西から)



SI-04炉跡完掘 (東から)



SI-05セクション (東から)



SI-05遺物確認状況 (北から)



SI-05遺物確認状況 (北から)



SI-05遺物出土状況 (南から)

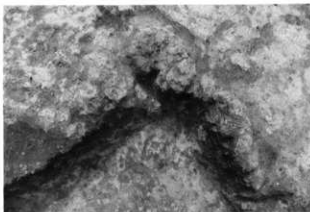


SI-05遺物出土状況 (北から)

PL8 二軒屋遺跡 B地点



SI-05完掘 (北から)



SI-05炉跡完掘 (北から)



東西セクション2本 (南から)



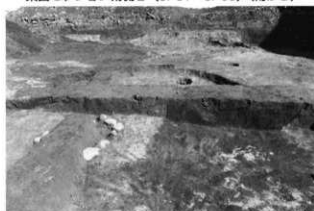
東西セクション南側1 (カクラン付近) (南から)



東西セクション南側2 (SI-01・SI-05) (南から)



東西セクション南側3 (SI-01・SI-04) (南から)



東西セクション北側1 (SI-01・SI-04) (南から)



東西セクション北側2 (SI-01・SI-05) (南から)



東西セクション北側3 (SI-03・SI-05) (南から)



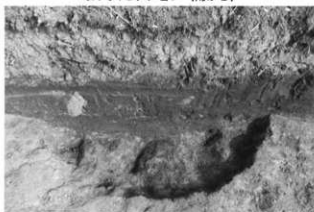
東西セクション北側4 (SI-03) (南から)



SK-04セクション (南から)



SK-05セクション (南から)



SK-05 (南から)



SK-04・SK-05・攪乱 (北から)



SK-08セクション (北から)



SK-10セクション (西から)

PL10 二軒屋遺跡 B地点



SK-08・SK-10発掘（西から）



SK-09セクション（北から）



SK-17セクション（西から）



SK-17発掘（東から）



SI-01・04・05遺物出土状況（西から）



調査区全景（南から）



調査区全景（東から）



調査区全景（北東から）



SI-01東西セクション (南から)



SI-01南北セクション (東から)



SI-01完掘状況 (南から)



SI-01完掘状況 (西から)



SI-01カマドセクション (西から)



SI-01カマドセクション (南から)



SI-01カマド完掘状況 (東から)



SI-01カマド完掘状況 (南から)

PL12 芋内遺跡



SI-01完掘状況 (北東から)



SI-01完掘状況 (南から)



SI-02南北セクション (西から)



SI-02東西セクション (南から)



SI-02東西セクション (南から)



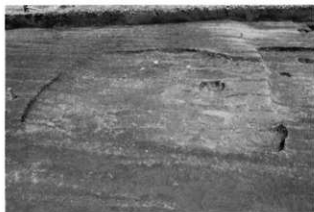
SI-02カマド付近遺物出土状況 (南から)



SI-02カマドセクション (南から)



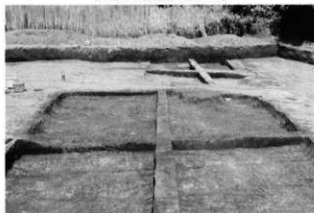
SI-02カマドセクション (東から)



SI-02完掘状況 (南から)



SI-02完掘状況 (南から)



SI-03東西セクション (南から)



SI-03南北セクション (東から)



SI-03遺物出土状況 (東から)



SI-03遺物出土状況 (北から)

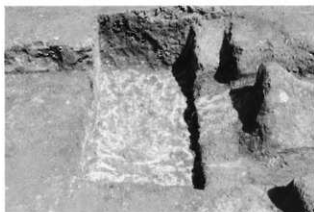


SI-03カマドセクション (南から)



SI-03カマドセクション (南から)

PL14 芋内遺跡



SI-03カマド穴掘状況（南から）



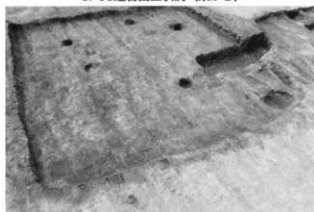
SI-03完掘状況（南から）



SI-03遺物出土状況（東から）



SI-03遺物出土状況（東から）



SI-03完掘状況（東から）



SI-04南北セクション（西から）



SI-04東西セクション（南から）



SI-04南北セクション (東から)



SI-04カマドセクション (東から)



SI-04カマドセクション (南から)



SI-04カマド完掘状況 (西から)



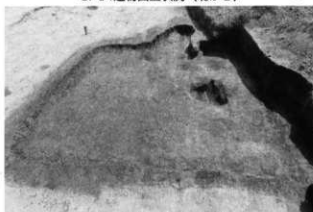
SI-04カマド遺物出土状況 (西から)



SI-04遺物出土状況 (北から)



SI-04遺物出土状況 (北から)



SI-04完掘状況 (西から)

PL16 芋内遺跡



SI-05南北セクション (東から)



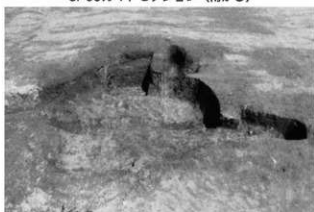
SI-05東西セクション (南から)



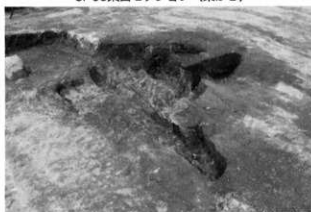
SI-05カマドセクション (南から)



SI-05東西セクション (東から)



SI-05カマド完掘状況 (南から)



SI-05カマド完掘状況 (南東から)



SI-06東西セクション (北から)



SI-06南北セクション (東から)



SI-06遺物出土状況 (南から)



SI-06遺物出土状況 (東から)



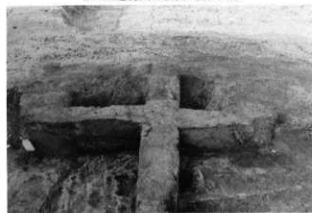
SI-06ベルト設定状況 (東から)



SI-06遺物出土状況 (東から)



SI-06カマドセクション (東から)



SI-06カマドセクション (西から)

PL18 芋内遺跡



SI-06カマドセクション (西から)



カマド完掘状況 (南から)



SI-06遺物出土状況 (北から)



SI-06穴跡完掘状況 (東から)



SI-06穴跡完掘状況 (東から)



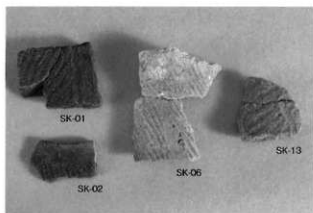
SI-06完掘状況 (東から)



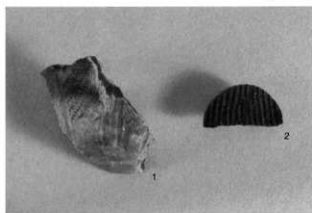
調査区全景 (西から)



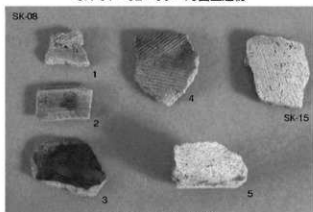
調査区全景 (東から)



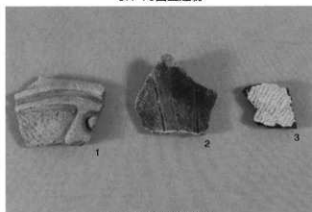
SK-01・02・06・13出土遺物



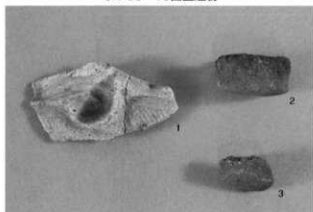
SK-16出土遺物



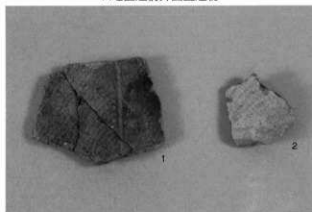
SK-08・15出土遺物



A地区遺構外出土遺物

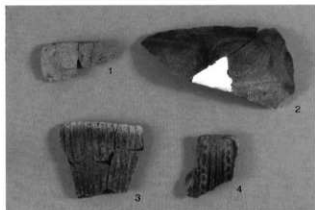


SI-01出土遺物



SI-03出土遺物

PL20 二軒屋遺跡 B地点



SI-04出土遺物①



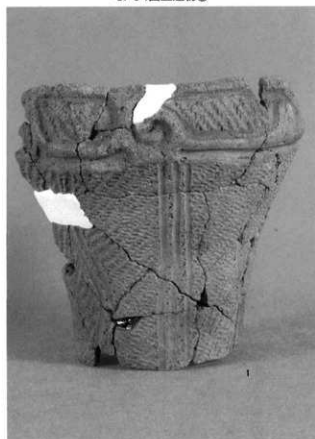
SI-04出土遺物②



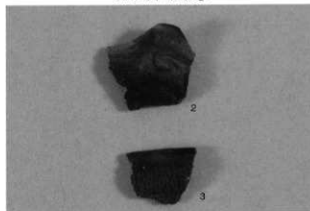
SI-04出土遺物③



SI-04出土遺物④



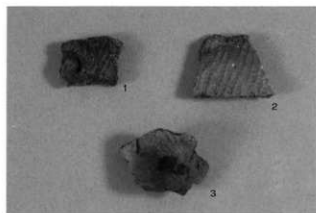
SI-05出土遺物①



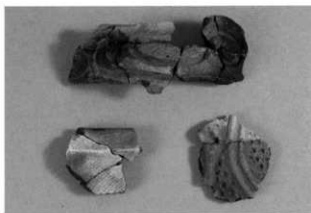
SI-05出土遺物②



SI-05出土遺物③



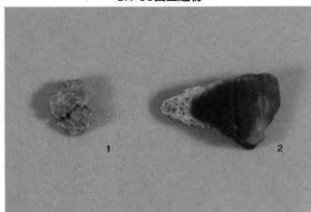
SK-08出土遺物



SK-09出土遺物



SK-10出土遺物



SK-17出土遺物



SI-02出土遺物①



SI-02出土遺物②



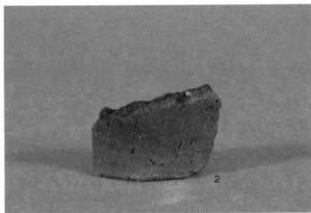
SI-02出土遺物③



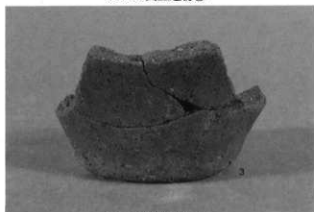
SI-02出土遺物④



SD-03出土遺物①



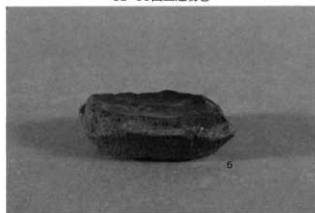
SD-03出土遺物②



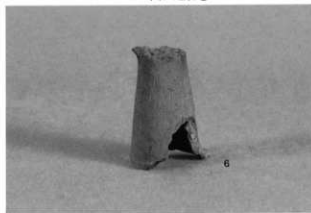
SD-03出土遺物③



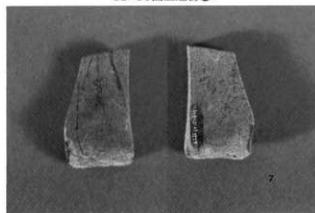
SD-03出土遺物④



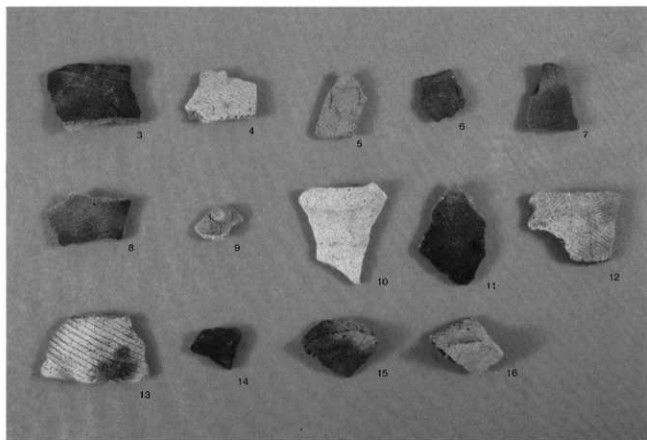
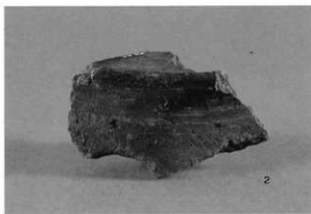
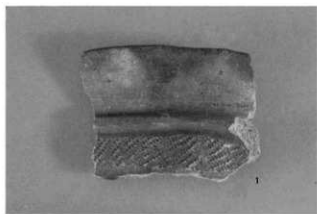
SD-03出土遺物⑤



SD-03出土遺物⑥



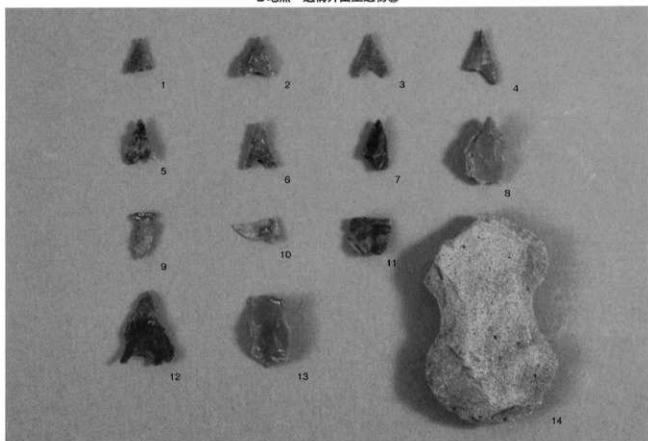
SD-03出土遺物⑦



B地点 遺構外出土遺物①



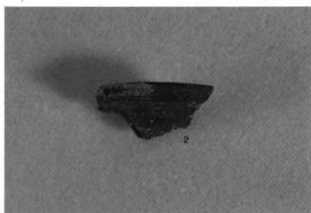
B地点 遺構外出土遺物②



B地点 出土 石器



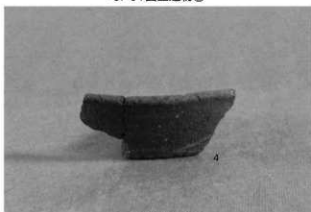
SI-01出土遺物①



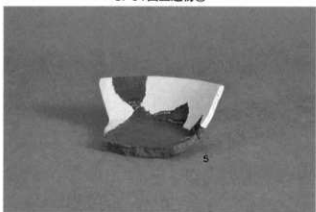
SI-01出土遺物②



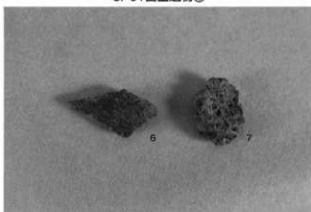
SI-01出土遺物③



SI-01出土遺物④



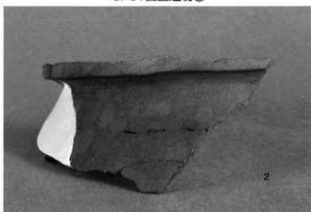
SI-01出土遺物⑤



SI-01出土遺物⑥



SI-02出土遺物①

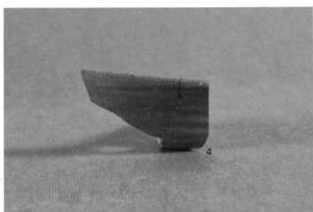


SI-02出土遺物②

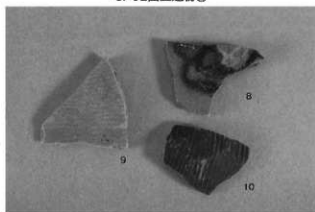
PL26 芋内遺跡



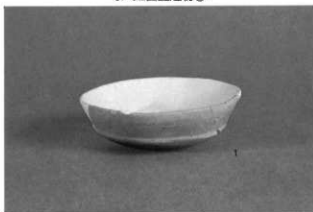
SI-02出土遺物③



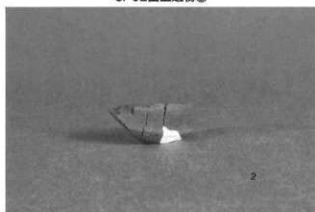
SI-02出土遺物④



SI-02出土遺物⑤



SI-03出土遺物①



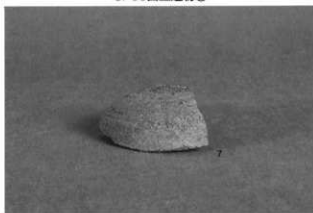
SI-03出土遺物②



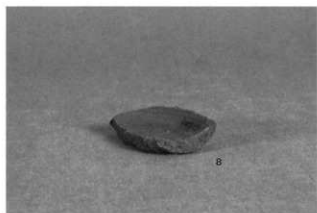
SI-03出土遺物③



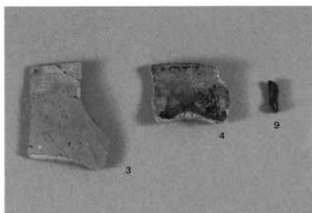
SI-03出土遺物④



SI-03出土遺物⑤



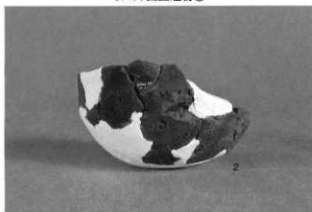
SI-03出土遺物⑥



SI-03出土遺物⑦



SI-04出土遺物①



SI-04出土遺物②



SI-04出土遺物③



SI-04出土遺物④

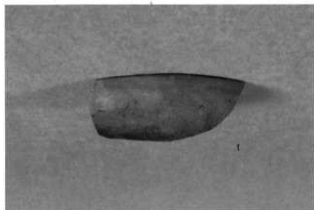


SI-04出土遺物⑤

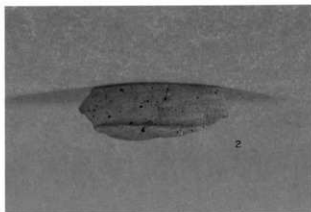


SI-04出土遺物⑥

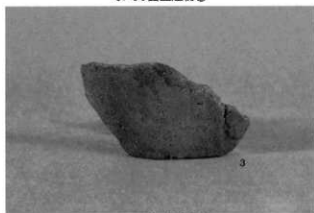
PL28 芋内遺跡



SI-05出土遺物①



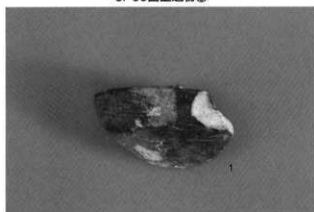
SI-05出土遺物②



SI-05出土遺物③



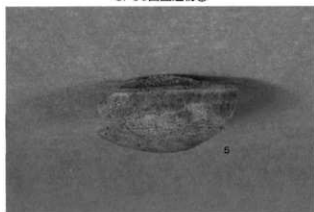
SI-05出土遺物④



SI-06出土遺物①



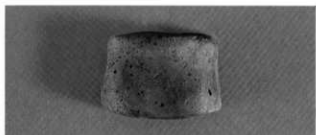
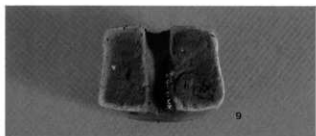
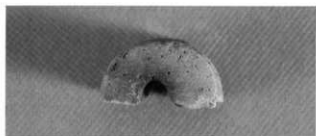
SI-06出土遺物②



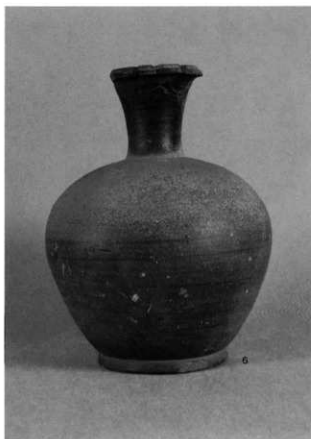
SI-06出土遺物③



SI-06出土遺物④



SI-06出土遺物⑤



遺構外出土遺物①

報 告 書 抄 録

ふりがな	にげんやいせき・いもうちいせき
書名	二軒屋遺跡・芋内遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第95集
編著者名	清地良太 今平利幸
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 TEL028-632-2764
発行年月日	西暦 2016年(平成28年) 3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にげんやいせき 二軒屋遺跡	うつのみやし 若松原3丁目	09201	3223	36度 50分 33秒	139度 86分 20秒	20120912 ～ 20130329	438	個人住宅 建設に先 立つ調査
いもうちいせき 芋内遺跡	うつのみやし 中島町	09201	4359	36度 49分 18秒	139度 90分 02秒	20111121 ～ 20120831	1,080	道路新設 工事に先 立つ調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
二軒屋遺跡	集落跡	縄文～古墳	竪穴住居跡 土坑 溝	5軒 28基 1条	縄文土器、弥生土器、 石鏃、石斧、円筒埴 輪	
芋内遺跡	集落跡	古墳～平安	竪穴住居跡	6軒	土師器、須恵器、 土製紡錘車、縄文土 器	

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第 95 集

二軒屋遺跡・芋内遺跡

発行 宇都宮市教育委員会

編集 宇都宮市教育委員会

宇都宮市旭1丁目1番5号

TEL 028-632-2764

発行日 平成28年3月31日発行

印刷 有限会社 印刷親友社

宇都宮市瑞穂3-9-11

TEL 028-656-3655
